

2025年度
青少年のインターネット・リテラシー指標等に係る
調査結果

2026年4月
総務省情報流通行政局
情報流通振興課

1. 調査概要

2. 調査結果

(1) ILASテスト結果

(2) アンケート結果(高校生)

(3) アンケート結果(中学生)

(4) アンケート結果(小学校高学年)

(5) アンケート結果(小学校低学年)

3. 参考

1. 調査概要

ILAS等調査 概要 ①

○ 背景

総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）やOECDの「オンライン上の子供の保護に関する勧告」（2012年2月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標（ILAS）として開発。

2012年度より高校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテスト（ILASテスト）及びインターネット等の利用状況に関するアンケートを実施。本年度は対象を中学生、小学生に広げ実施。

○ 概要

- 実施時期：2025年11月～2026年1月
- 実施対象：全国の高等学校1学年、中学校1学年～3学年、小学校（高学年：4学年～6学年、低学年：1学年～3学年）
- 実施形式：CBT方式、問題非公開
- 実施内容：①ILASテスト（高等学校：全49問、中学校：全14問、小学校高学年・低学年：全14問）
②インターネット利用状況等に関するアンケート
- 実施委託事業者：PwCコンサルティング合同会社
- 実施対象校・参加者数：右図のとおり

	設立区分		協力人数		平均正答率	
高等学校	国公立	21校	男子	2,393名	男子	70.2%
	私立	9校	女子	2,009名	女子	74.8%
			計	4,621名	全体	72.4%
中学校	国公立	20校	男子	2,272名	男子	76.0%
	私立	5校	女子	2,219名	女子	77.9%
			計	4,675名	全体	76.8%
小学校 高学年	国公立	20校	男子	896名	男子	70.1%
	私立	2校	女子	832名	女子	73.1%
			計	1,839名	全体	71.7%
小学校 低学年	国公立	9校	男子	337名	男子	73.2%
	私立	1校	女子	338名	女子	71.2%
			計	754名	全体	71.4%

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）を3大分類・7中分類に分類。

リスク分類		対応能力	リスクの具体例
大分類	中分類		
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	著作権、肖像権、出会い系サイトの利用 等
	1b. 有害情報リスク	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	不適切投稿、炎上、閲覧制限等
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等
	2b. 不適正取引リスク	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる	フィッシング、ネット上の売買等
	2c. 不適切利用リスク	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー 等
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク	プライバシー保護を図り利用できる	プライバシー・個人情報の流出 等
	3b. セキュリティリスク	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる	ID、パスワード、ウイルス 等

2. 調查結果

ILAS等調査 結果概要-高校生-

(1) ILASテスト結果

- 全体(全49問)の正答率(→p.11)
72.4%(前年度正答率:71.5%)
- リスクの中分類別の正答率(→p.11.12)
「不適切利用リスク(過大消費、ネット依存等)」に対応する問の正答率(79.5%)が最も高く、「不適正取引リスク(フィッシングやネット上の売買等)」に対応する問の正答率(62.9%)が最も低い。
※リスクの中分類別の正答率については、前年度までの正答率とほぼ横ばい。

(2) アンケート結果

- ペアレンタルコントロールの状況(→p.17-19)
 - ・SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の41.3%が「ある」と回答(前年度:53.4%)。「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合、ILASテストの正答率は74.0%と全体の正答率よりも高い。ペアレンタルコントロールの周知啓発を引き続き行うことが重要。
- 学校における取組状況・トラブル遭遇時の対応(→p.20-25)
 - ・学校で教えられた注意点等について、「長時間利用」、「生成AI」、「フィルターバブル」の回答率は、前年度よりも増加。「ネットいじめ」や「個人情報・プライバシー」等の課題に加え、「生成AI」等の新たな課題について学ぶ機会が増加。
 - ・フェイクニュースに遭遇した際の対応について、他での言及をチェックしたや情報源などの適切な対応をとったとの回答率は前年度より低下。
- 生成AIの利用状況(→p.26-27)
 - ・生成AIについて、全体の12.6%が「使ったことはない」と回答し、前年度よりも大幅に低下。用途としては、「わからないことを調べる」との回答が最も多い(61.4%)。
 - ・生成AIのイメージとしては、「学習効率や効果があがる」との回答が最も多い(51.8%)。

ILAS等調査 結果概要-中学生-

(1) ILASテスト結果

○ 全体(全14問)の正答率(→p.13)
76.8%

○ リスクの中分類別の正答率(→p.13)

「違法情報リスク(著作権、肖像権等)」に対応する問の正答率(93.3%)が最も高く、「有害情報リスク(不適切当校、炎上等)」に対応する問の正答率(43.7%)が最も低い。

(2) アンケート結果

○ 家庭でのルールの有無の状況(→p.29)

・SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の78.4%が「ある」と回答。家庭でのルールの内容について、「使用時刻の制限」が最も多い(40.9%)。「家庭でのルールあり」の場合、ILASテストの正答率は77.5%と全体の正答率よりも高い。

○ 学校における取組状況・トラブル遭遇時の対応(→p.30-34)

・学校で教えられた注意点等について、「ネットいじめ」(88.0%)、「個人情報・プライバシー」(86.1%)、「インターネットの使いすぎ」(79.1%)との回答が多い。
・トラブルに遭遇した経験について、全体の48.7%が「トラブルの経験はない」と回答。経験がある場合は「迷惑メールを受け取った」(26.1%)との回答が最も多い。
・フェイクニュースに遭遇した際の対応について、他での言及や情報源をチェックしたなどの適切な対応をとったとの回答率は約4割。

○ 生成AIの利用状況(→p.35-36)

・生成AIについて、全体の15.9%が「使ったことはない」と回答。用途としては、「わからないことを調べる」との回答が最も多い(63.6%)。
・生成AIのイメージとしては、「新たな発見がたくさんできる」との回答が最も多い(50.0%)。

ILAS等調査 結果概要-小学校高学年-

(1) ILASテスト結果

○ 全体(全14問)の正答率(→p.14)
71.7%

○ リスクの中分類別の正答率(→p.14)

「違法情報リスク(著作権、肖像権等)」に対応する問の正答率(83.1%)が最も高く、「プライバシーリスク(プライバシー、個人情報の流出等)」に対応する問の正答率(53.8%)が最も低い。

(2) アンケート結果

○ 家庭でのルールの有無の状況(→p.38)

・SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の79.9%が「ある」と回答。家庭でのルールの内容について、「使用時刻の制限」が最も多い(44.8%)。「家庭でのルールあり」の場合、ILASテストの正答率は73.3%と全体の正答率よりも高い。

○ 学校における取組状況・トラブル遭遇時の対応(→p.39-41)

・学校で教えられた注意点等について、「いじめ」(75.4%)、「インターネットの使い過ぎ」(71.3%)、「簡単に自分のことをインターネットに書かない」(71.1%)との回答が多い。
・トラブルに遭遇した経験について、全体の69.8%が「トラブルにあったことはない」と回答。経験がある場合は「まちがっている情報を見た」(16.8%)との回答が最も多い。

○ スマートフォンの使い方を学んだ方法(→p.42)

・スマートフォンの使い方を学んだ方法について、「おうちの人やまわりの大人」との回答が最も多い。(63.6%)

○ 生成AIの利用状況(→p.43-44)

・生成AIについて、全体の24.2%が「使ったことはない」と回答。用途としては、「わからないことを調べる」との回答が最も多い(46.7%)。

・生成AIのイメージとしては、「新たな発見がたくさんできる」との回答が最も多い(43.8%)。

ILAS等調査 結果概要-小学校低学年-

(1) ILASテスト結果

○ 全体(全14問)の正答率(→p.15)
71.4%

○ リスクの中分類別の正答率(→p.15)

「不適切利用リスク(過大消費、ネット依存等)」に対応する問の正答率(88.2%)が最も高く、「違法情報リスク(著作権、肖像権等)」に対応する問の正答率(57.6%)が最も低い。

(2) アンケート結果

○ 家庭でのルールの有無の状況(→p.46)

・SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の84.9%が「ある」と回答。家庭でのルールの内容について、「使用時刻の制限」が最も多い(42.8%)。「家庭でのルールあり」の場合、ILASテストの正答率は73.9%と全体の正答率よりも高い。

○ 学校における取組状況・トラブル遭遇時の対応(→p.47-48)

・学校で教えられた注意点等について、「いじめ」(58.2%)、「インターネットのつかいすぎ」(52.6%)、「ほかのひとの、しゃしんをインターネットだすのはよくないこと」(46.2%)との回答が多い。
・トラブルに遭遇した経験について、全体の82.7%が「トラブルにあったことはない」と回答。

○ スマートフォンの使い方を学んだ方法(→p.49)

・スマートフォンの使い方を学んだ方法について、「おうちのひとや、まわりのおとな」との回答が最も多い。(52.3%)

(1) ILASテスト結果

ILASテスト結果①高校生

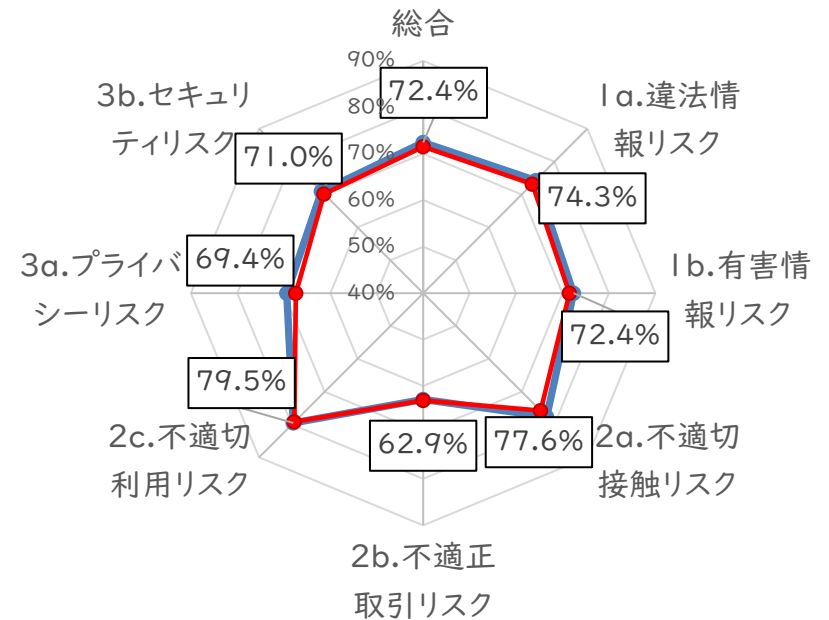
- 全体（全49問）の**正答率は、72.4%**。（前年度正答率：71.5%）
- リスクの中分類別の正答率については、前年度と同様に「**2c. 不適切利用リスク**」に対応する問の正答率（79.5%）が**最も高く**、「**2b. 不適正取引リスク**」に対応する問の正答率（62.9%）が**最も低い**。

【図表1-1】リスク中分類ごとの正答率

総 合		72.4%	(前年度 71.5%)
1. 違法有害 情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	74.3%	(前年度 73.2%)
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	72.4%	(前年度 71.5%)
2. 不適正利用 リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	77.6%	(前年度 75.8%)
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	62.9%	(前年度 63.1%)
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	79.5%	(前年度 79.2%)
3. プライバ シー・ セキュリ ティリ スク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	69.4%	(前年度 67.4%)
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	71.0%	(前年度 70.2%)

【図表1-2】リスク中分類ごとの正答率のレーダーチャート

● 2025年度平均正答率 ● 2024年度平均正答率



※上図中の数字は2025年度の数字

ILASテスト結果①高校生 -リスク分類別の経年比較-

○ 2025年度においては、前年度までの正答率とほぼ横ばいである。
 (2022年度に一部設問の改修を行っているため、2021年度までの結果は参考値として取り扱う。)

リスク分類	具体例	参考値								2015~2021年平均	2022年度 n=12,250	2023年度 n=13,108	2024年度 n=5,314	2025年度 n=4,621
		2015年度 n=13,647	2016年度 n=14,812	2017年度 n=17,223	2018年度 n=12,626	2019年度 n=7,252	2020年度 n=12,499	2021年度 n=14,021						
総合	-	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	72.0%	70.6%	69.5%	71.1%	71.4%	71.5%	72.4%	
1. 違法有害情報リスク														
1a.	違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	76.0%	75.9%	73.9%	75.1%	75.0%	73.2%	74.3%
1b.	有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	69.1%	67.1%	67.2%	68.4%	69.5%	71.5%	72.4%
2. 不適正利用リスク														
2a.	不適切接触 リスク	匿名SNS、迷惑メー ル、SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	79.3%	78.3%	77.5%	77.6%	77.7%	75.8%	77.6%
2b.	不適正取引 リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	61.9%	60.2%	57.9%	60.3%	59.6%	63.1%	62.9%
2c.	不適切利用 リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	81.5%	79.6%	79.9%	79.7%	80.7%	79.2%	79.5%
3. プライバシー・セキュリティリスク														
3a.	プライバシー リスク	プライバシー、個人 情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	66.2%	64.7%	63.4%	66.2%	67.0%	67.4%	69.4%
3b.	セキュリティ リスク	ID・パスワード、 ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	69.9%	68.5%	66.8%	70.2%	70.6%	70.2%	71.0%

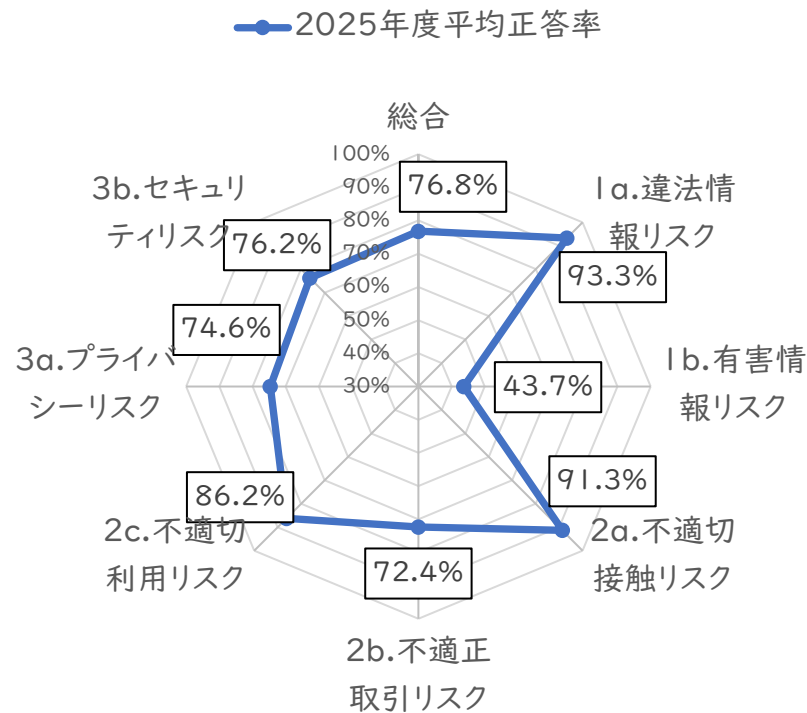
ILASテスト結果②中学生

- 全体(全14問)の正答率は、76.8%。
- リスクの中分類別の正答率については、「1a. 違法情報リスク」に対応する問の正答率(93.3%)が最も高く、「1b. 有害情報リスク」に対応する問の正答率(43.7%)が最も低い。

【図表1-1】リスク中分類ごとの正答率

総合		76.8%
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	93.3%
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	43.7%
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	91.3%
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	72.4%
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	86.2%
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	74.6%
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	76.2%

【図表1-2】リスク中分類ごとの正答率のレーダーチャート



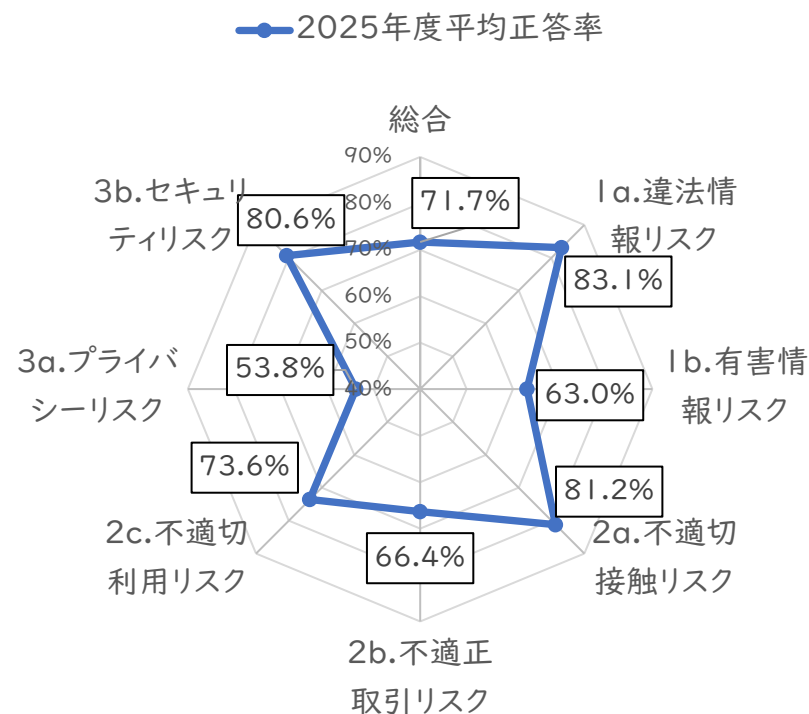
ILASテスト結果③小学校高学年

- 全体(全14問)の正答率は、71.7%。
- リスクの中分類別の正答率については、「1a. 違法情報リスク」に対応する問の正答率(83.1%)が最も高く、「3a. プライバシーリスク」に対応する問の正答率(53.8%)が最も低い。

【図表1-1】リスク中分類ごとの正答率

総合		71.7%
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	83.1%
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	63.0%
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	81.2%
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	66.4%
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	73.6%
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	53.8%
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	80.6%

【図表1-2】リスク中分類ごとの正答率のレーダーチャート



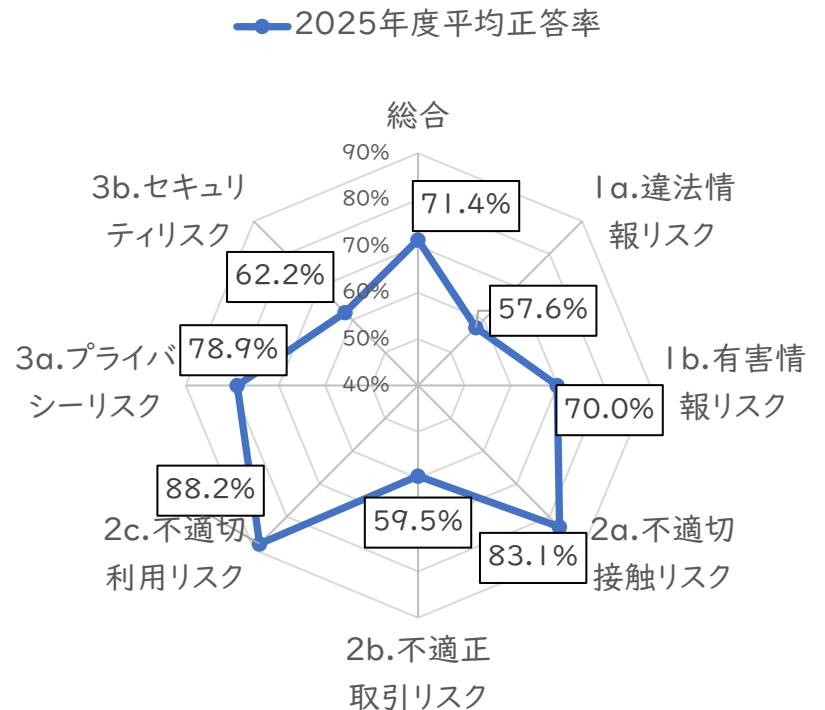
ILASテスト結果④小学校低学年

- 全体(全14問)の正答率は、71.4%。
- リスクの中分類別の正答率については、「2c. 不適切利用リスク」に対応する問の正答率(88.2%)が最も高く、「1a. 違法情報リスク」に対応する問の正答率(57.6%)が最も低い。

【図表1-1】リスク中分類ごとの正答率

総合		71.4%
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	57.6%
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	70.0%
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	83.1%
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	59.5%
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	88.2%
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	78.9%
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	62.2%

【図表1-2】リスク中分類ごとの正答率のレーダーチャート



(2) アンケート結果(高校生)

- ①ペアレンタルコントロールの状況
- ②学校における取組の状況
- ③トラブル遭遇時の対応
- ④生成AIの利用状況

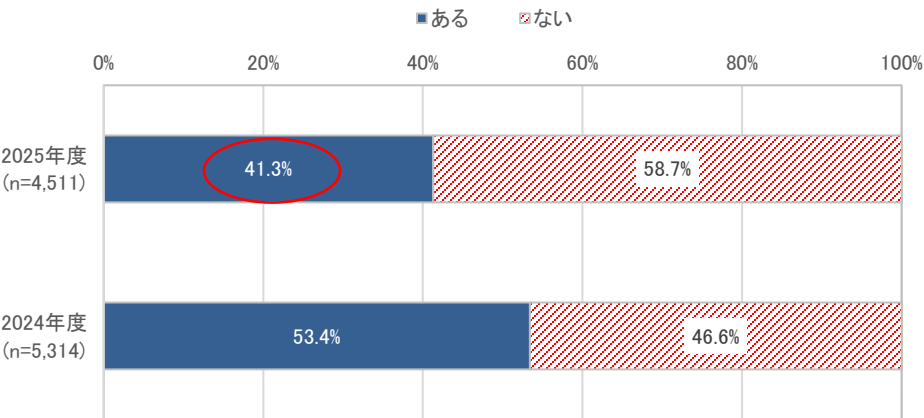
①ペアレンタルコントロールの状況 -家庭でのルールの有無・内容-

※ペアレンタルコントロールとは、保護者が青少年のライフサイクルを見通して、その発達段階に応じてインターネット利用を適切に管理することをいい、フィルタリング等の技術的措置及び家庭内ルール作り等の非技術的措置で構成。

- SNS等のインターネット利用に関する**家庭でのルールの有無**について、**全体の41.3%**が「**ある**」と回答。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、**誹謗中傷の書き込みをしない等の「発信情報の制限」(30.2%)**が最も多く、次いで「**情報公開(個人情報)の制限**」(28.5%)が多い。【図表2】

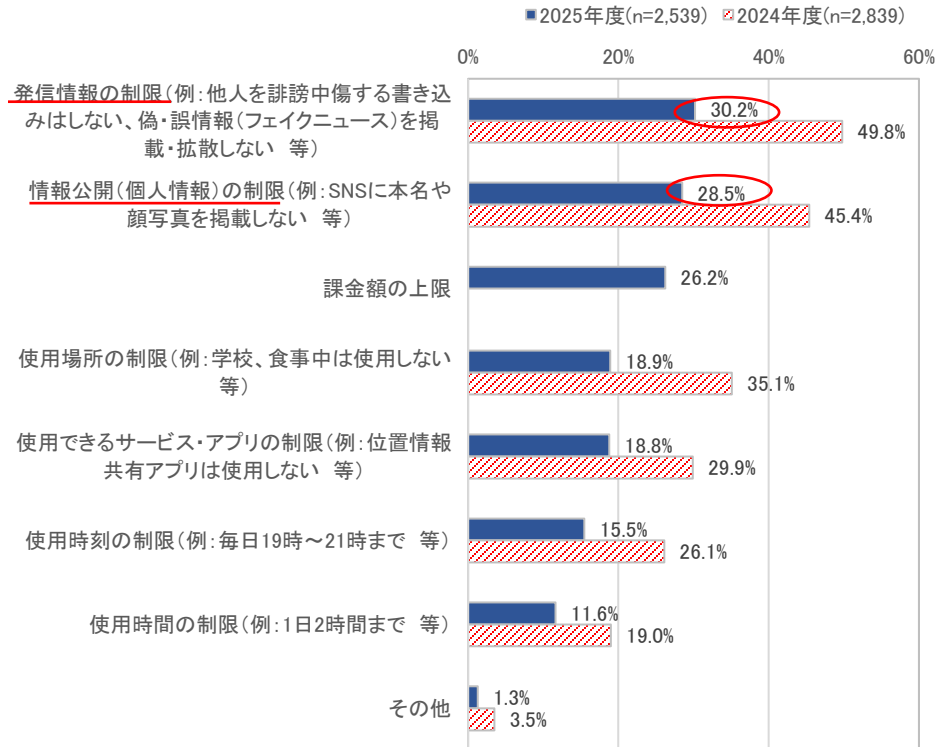
SNS等のインターネット利用について、家庭ではどのようなルールがありますか。

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)



※「家庭でのルールの内容」に関する質問の中に「特にない」という選択肢を設け、「特にない」と回答した者以外を「ある」と集計し(図表1)、図表1で「ある」と回答した者を母数として家庭でのルールの内容を集計(図表2)。「課金額の上限」は2025年度のみ選択肢(図表2)。

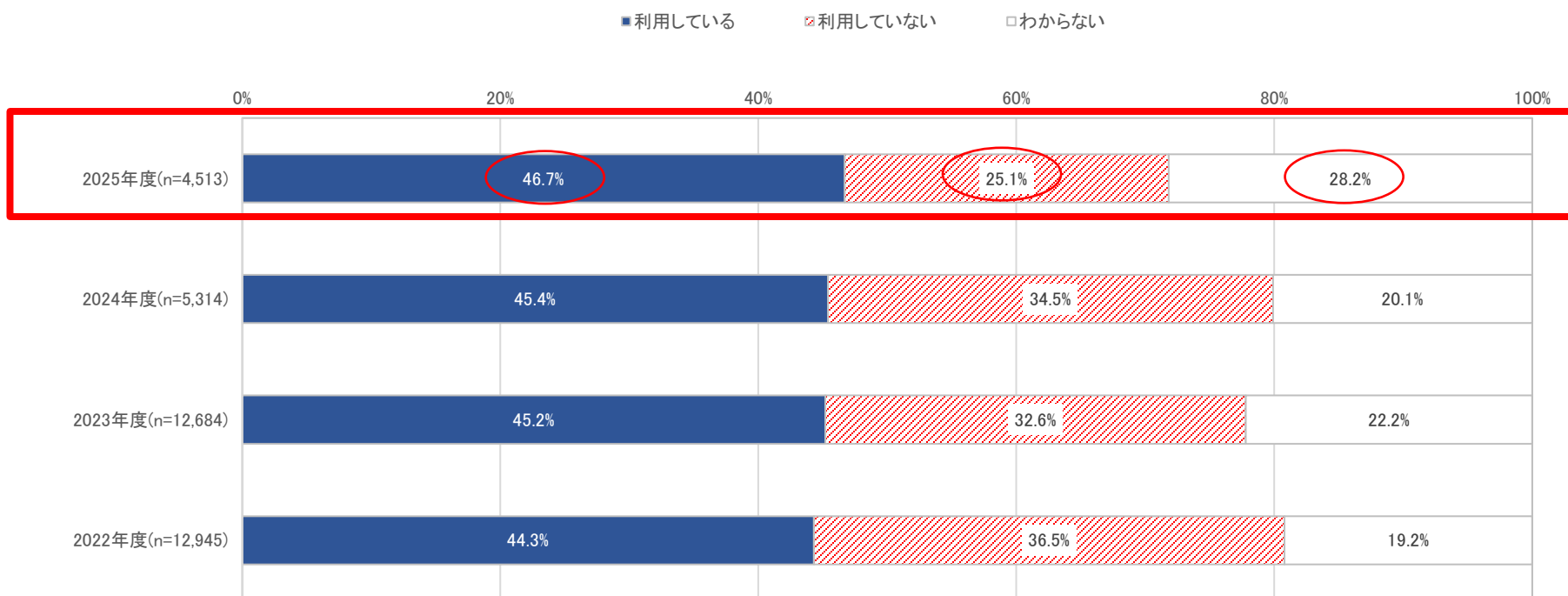
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

①ペアレンタルコントロールの状況 -フィルタリング利用状況-

- フィルタリング利用状況については、全体の46.7%が「利用している」と回答。
- その一方で、25.1%が「利用していない」、28.2%が「わからない」と回答。

【図表】フィルタリングの利用状況（択一回答）

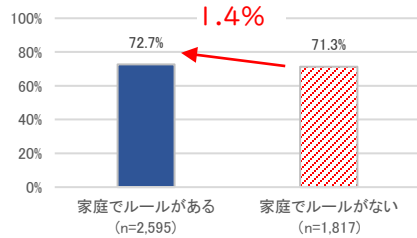
あなたはフィルタリングサービス（あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOSの機能やサービスも含みます。）または機能制限を利用していますか（最も利用している機器についてお答えください）。



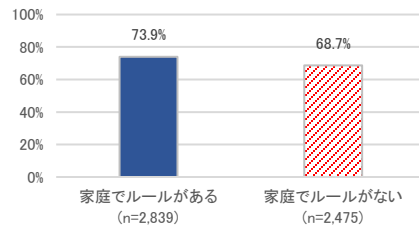
①ペアレンタルコントロールの状況 -家庭でのルール・フィルタリングとILAS結果-

- 家庭でのルールがある者の正答率は、家庭でのルールがない者に比べ、1.4%高い。【図表1】
- フィルタリング等を利用している者の正答率は、利用していない者に比べ、1.0%高い。【図表2】
- 家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と、正答率との関係については、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合、74.0%と最も高く、家庭でのルールとフィルタリング利用がいずれも「なし」の場合に比べて2.8%高い。【図表3】

【図表1】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率
(2025年度)

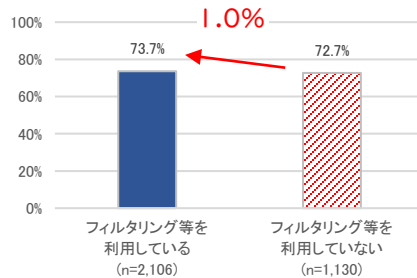


(2024年度)

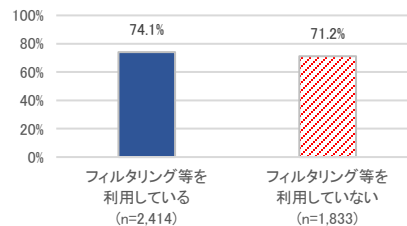


【図表2】フィルタリング利用の有無と正答率
(母数:フィルタリングの利用状況について「わからない」と回答した者以外)

(2025年度)



(2024年度)



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

(母数:フィルタリングの利用状況について「わからない」と回答した者以外)

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	74.0% (n=1,243) (前年度: 74.9%)	73.4% (n=818) (前年度: 71.9%)
	×なし	73.8% (n=643) (前年度: 73.8%)	71.2% (n=459) (前年度: 69.7%)

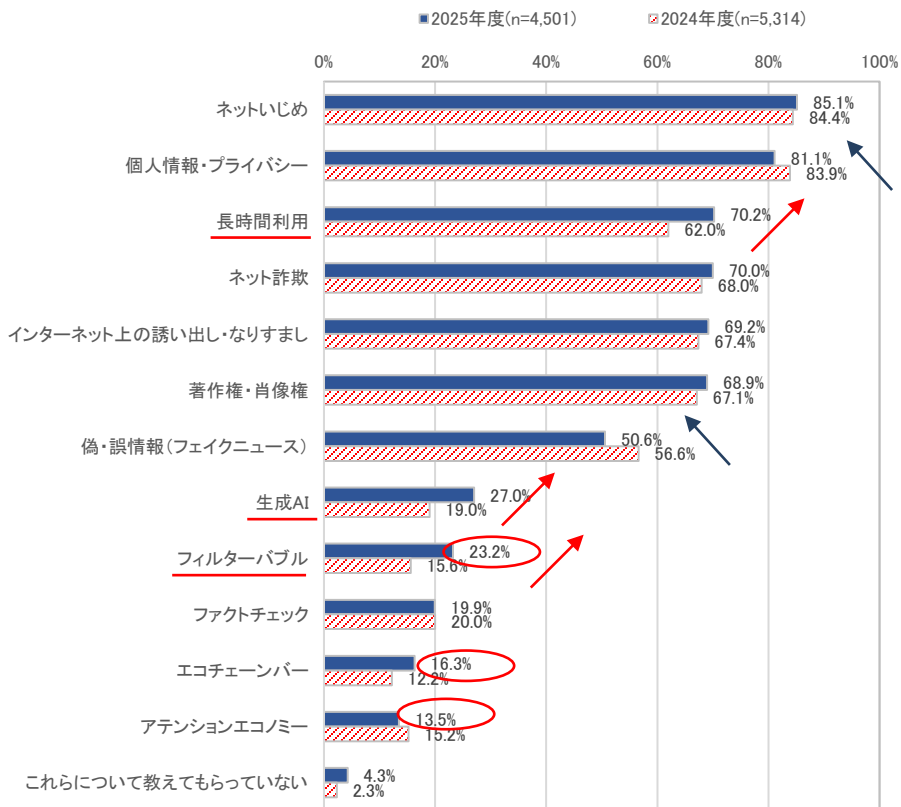
全体の正答率は72.4% (n=4,621)

②学校における取組の状況 -学校での学習内容及び学習の有無とILAS結果-

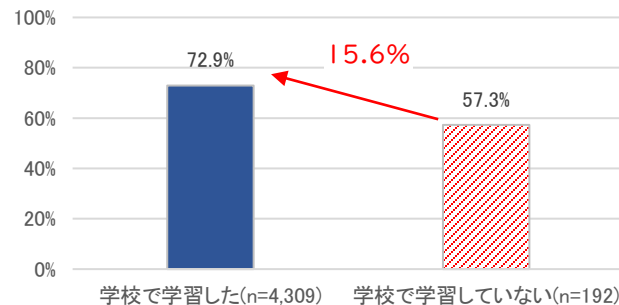
- 学校で教わったインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策について、本年度は前年度に比べ「長時間利用」、「生成AI」、「フィルターバブル」の回答率が増加、「個人情報・プライバシー」や「偽・誤情報(フェイクニュース)」の回答率は低い。【図表1】
- 偽・誤情報等の流通・拡散の構造的な要因とも指摘されている「フィルターバブル」(23.2%)、「エコーチェンバー」(16.3%)、「アテンションエコノミー」(13.5%)についても学校で教えられたことがあると回答。【図表1】
- 学校でインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策を教わった者の方が、教えてもらっていない者より、ILASテストの正答率が15.6%高い。【図表2】

インターネットを利用するにあたっての注意点、または対応策について、次の中であなたが学校で教えてもらったことはありますか。

【図表1】学校で教えられた内容(複数回答)



【図表2】学校での学習の有無(択一回答)と正答率



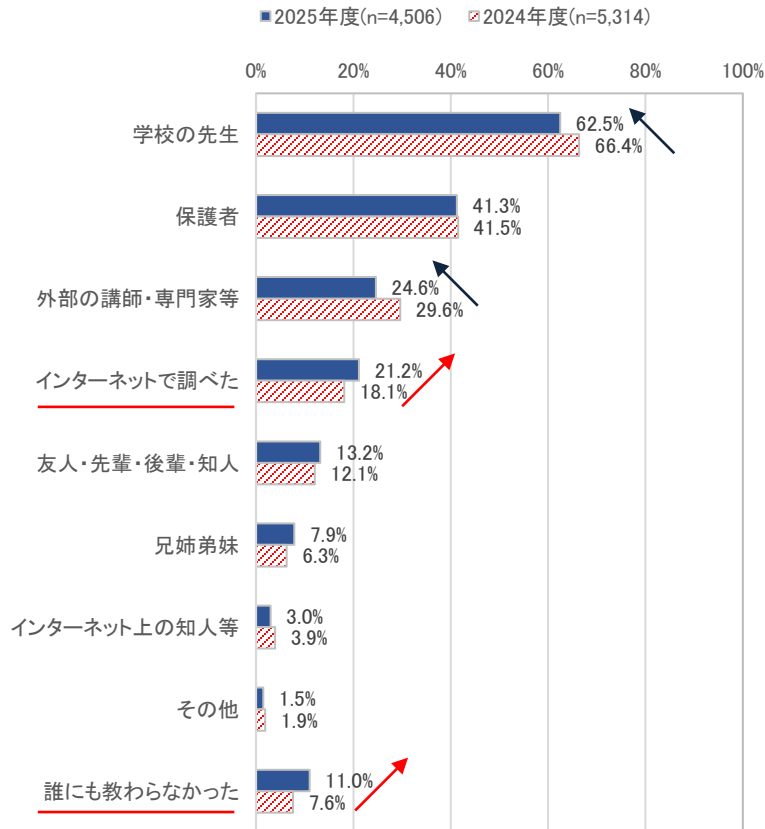
※「これらについて教えてもらっていない」と回答した者を「学習がない者」、「これらについて教えてもらっていない」と回答した者以外を「学習がある者」としている。

②学校における取組の状況 -偽・誤情報、生成AIに関する学習の有無-

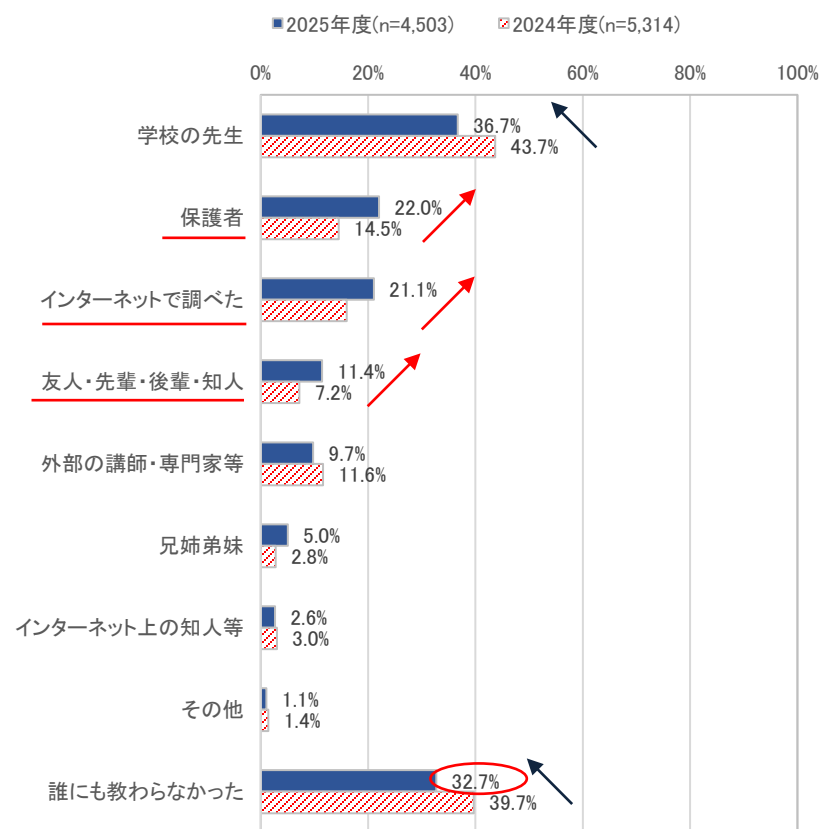
- 偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点等を教わった相手について、前年度に比べ「インターネットで調べた」、「誰にも教わらなかった」の回答率が高い。【図表1】
- 生成AIに関する危険や注意点等を教わった相手について、前年度に比べ「保護者」、「インターネットで調べた」、「友人・先輩・後輩・知人」の回答率が増加したが、「誰にも教わらなかった」という回答も多い（32.7%）。【図表2】

今までに、インターネット上の偽・誤情報（フェイクニュース）/生成AIについて、危険や注意点等について、誰かに教わったことはありますか。

【図表1】偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点、対応策について教えてもらったことがある人（複数回答）



【図表2】生成AIに関する危険や注意点について教えてもらったことがある人（複数回答）

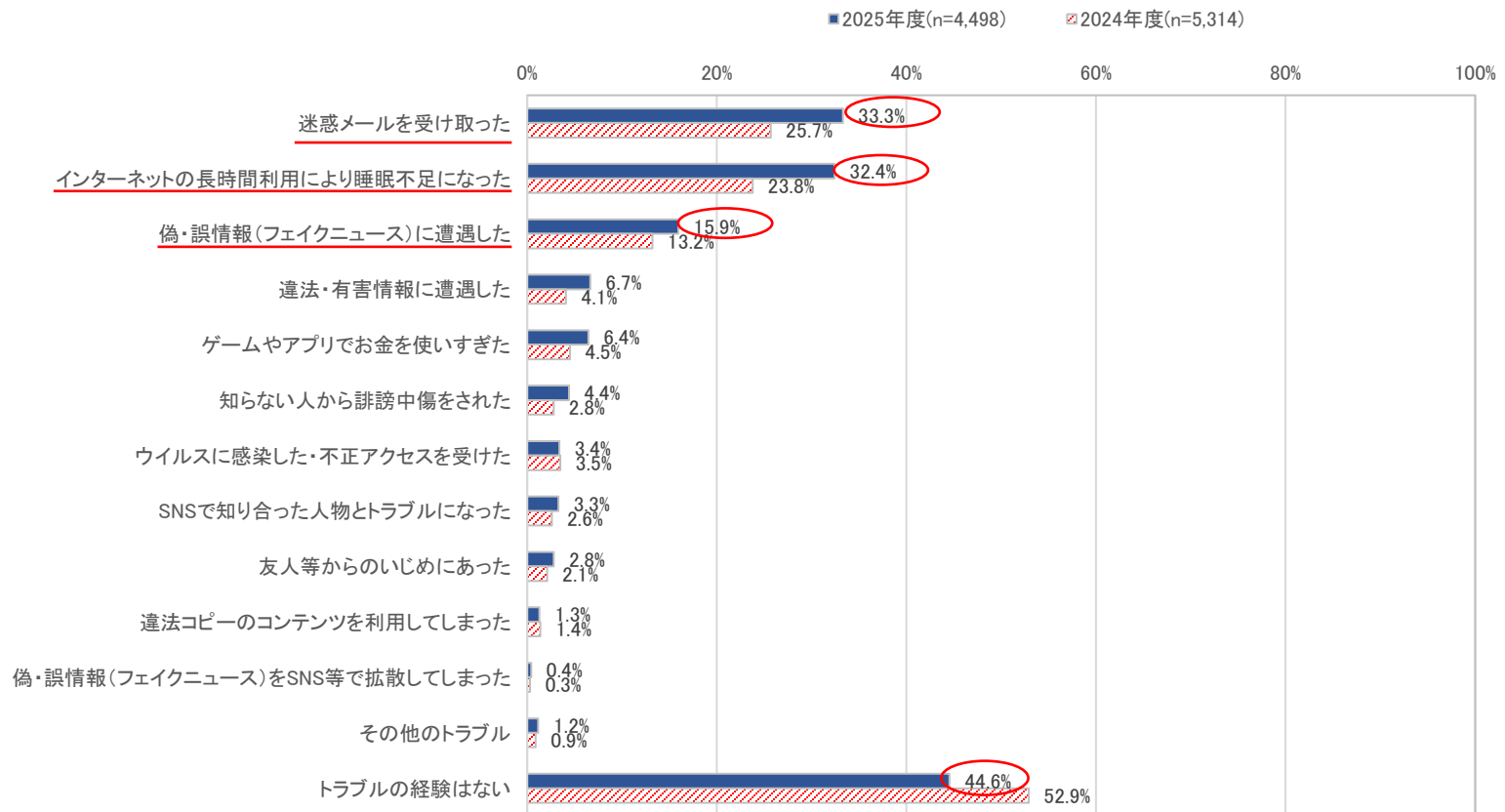


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇状況-

- 全体の**44.6%**が、インターネット利用に際して、「**トラブルの経験はない**」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「**迷惑メールを受け取った**」(33.3%)との回答が最も多く、「**インターネットの長時間利用により睡眠不足になった**」(32.4%)、「**偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した**」(15.9%)との回答が続く。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

あなたはインターネットの利用に際して、次のようなトラブルの経験はありますか。

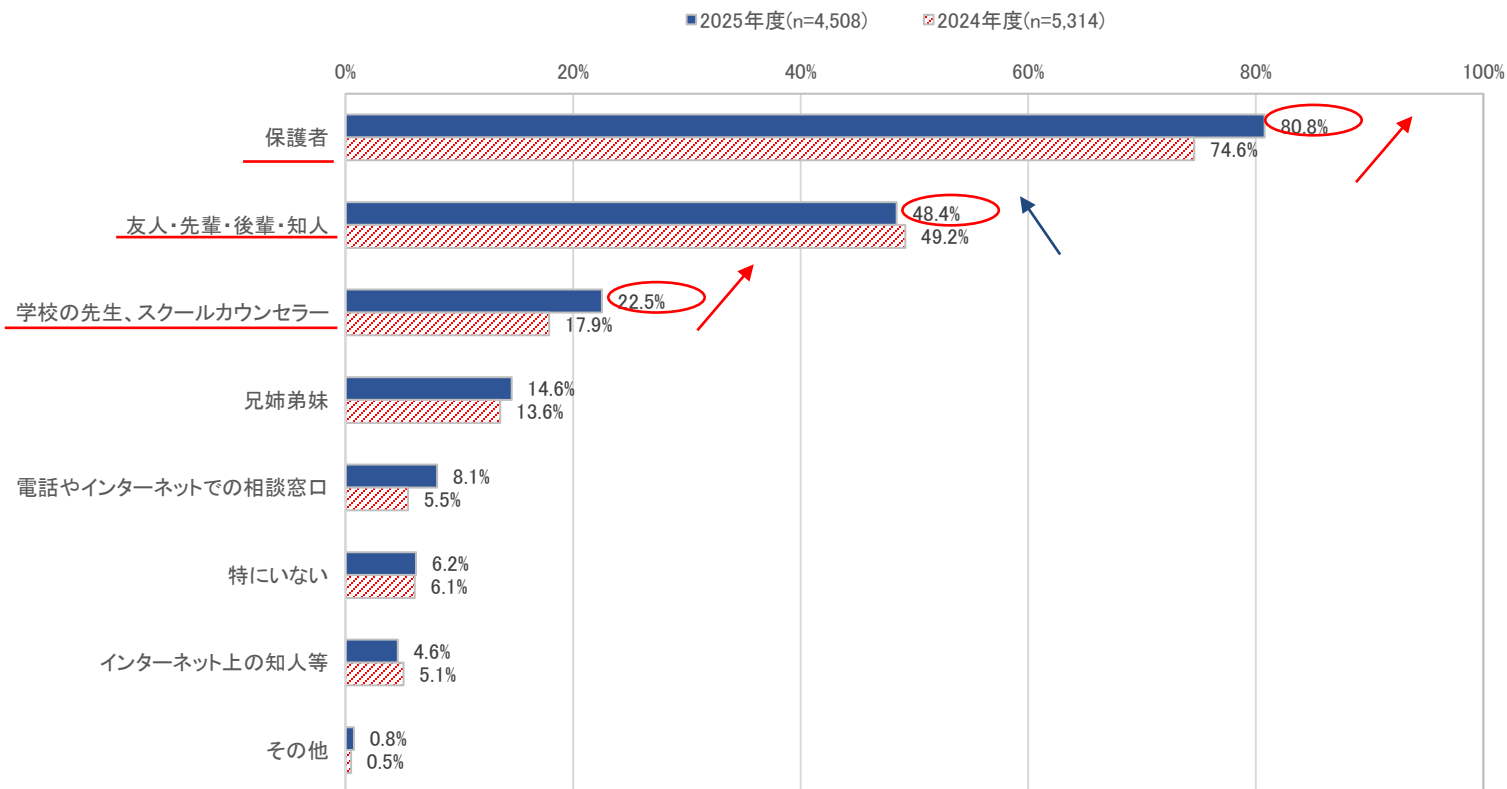


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇時に相談する相手-

- **トラブル遭遇時に相談する相手**については、**全体の80.8%**が「**保護者**」と回答。次いで「友人・先輩・後輩・知人」(48.4%)、「**学校の先生、スクールカウンセラー**」(22.5%)との回答が多い。
- 前年度に比べ「**保護者**」、「**学校の先生、スクールカウンセラー**」に相談するとの回答率が増加し、「友人・先輩・後輩・知人」に相談するとの回答率が低下した。

【図表】トラブル遭遇時に相談する相手(複数回答)

インターネット上のトラブルがあった場合、あなたが相談する人は誰ですか。



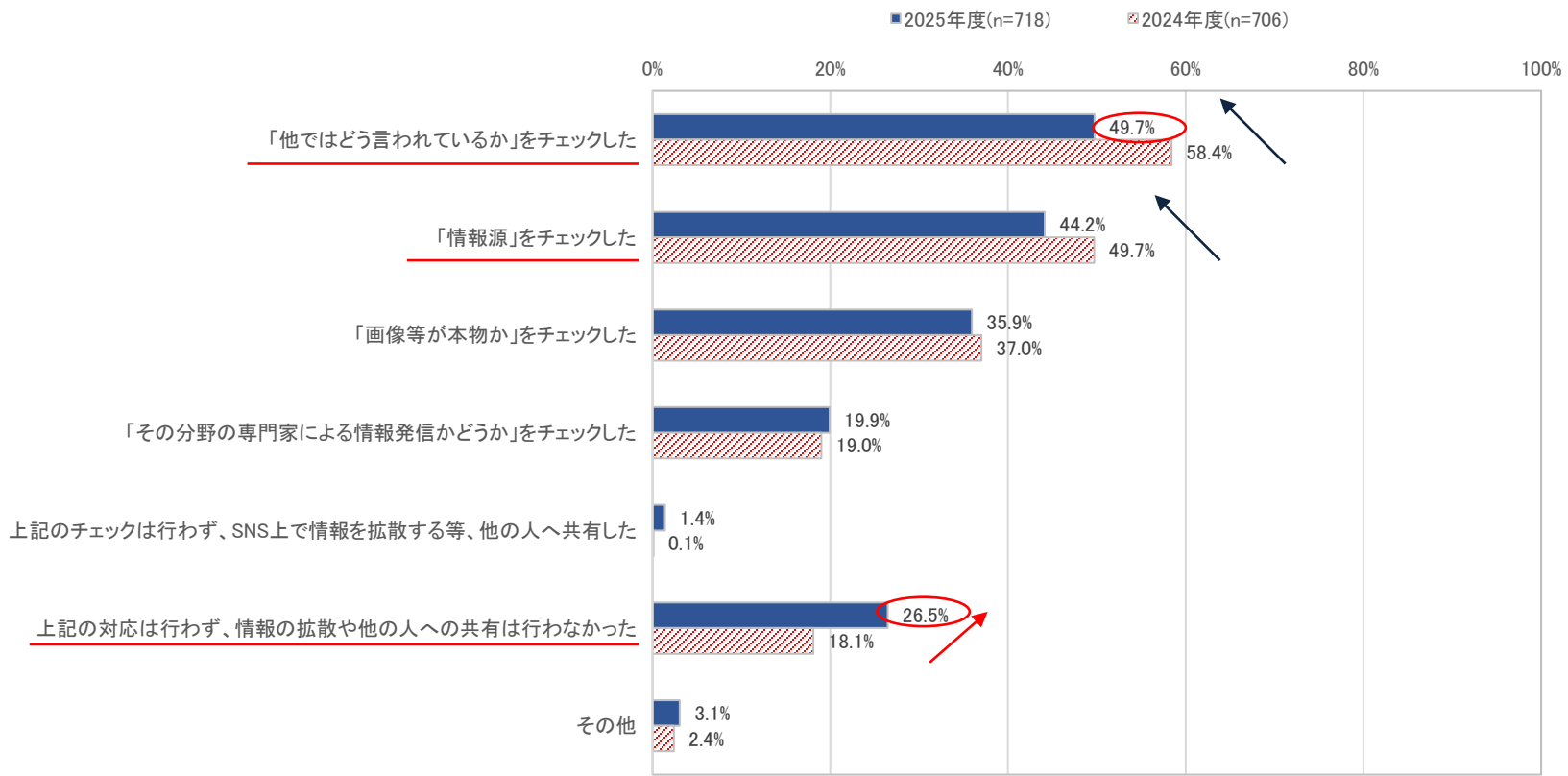
③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報(フェイクニュース)遭遇時の対応-

- 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応については、**49.7%**が、「**他ではどう言われているか**」を**チェックした**」と回答。
- 「**対応は行わず、情報の拡散や情報の拡散や他の人への共有は行わなかった**」との回答が**26.5%**。
- 前年度と比べ、「**対応は行わず、情報の拡散や情報の拡散や他の人への共有は行わなかった**」との回答率が増加し、「**他ではどう言われているか**」を**チェックした**」、「**情報源を**」**チェックした**」などの適切な対応を取る割合が減少した。

【図表】偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応(複数回答)

(母数:トラブル遭遇経験について、「偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した」「偽・誤情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ)

インターネット上で偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際に、あなたはどのような対応をしましたか。



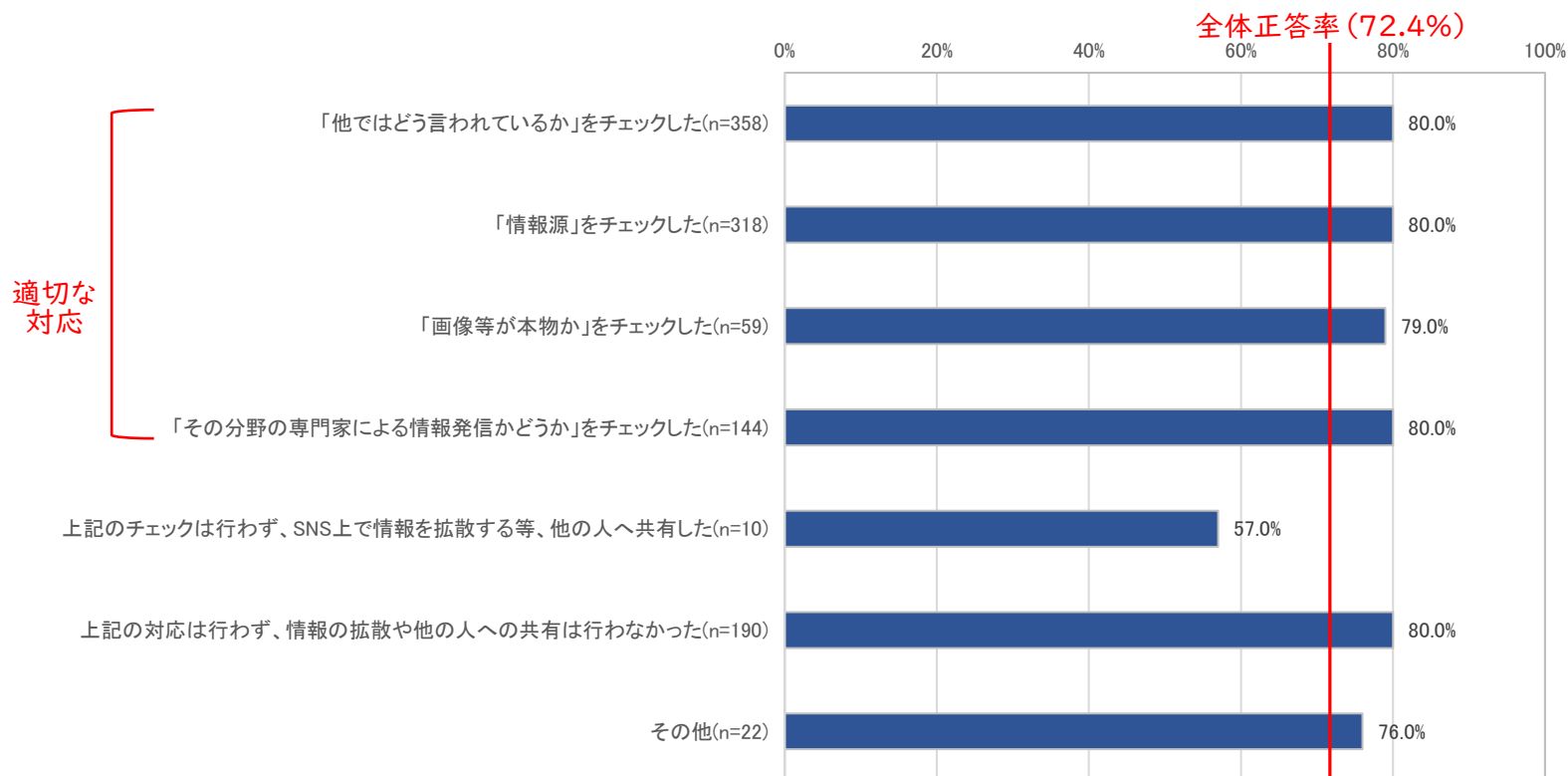
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報遭遇時の対応とILAS結果-

- 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際に適切な対応をとっている者の正答率は全体正答率を超え、「SNS上で情報を拡散する等、他の人へ共有した」と適切でない対応をとっている者の正答率は、全体正答率より低い傾向がみられた。
- 一方で、適切な対応をとっている者と「対応は行わず、情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」者の正答率は、ほぼ同程度となった。

【図表】偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応(複数回答)と正答率

(母数:トラブル遭遇経験について、「偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した」「偽・誤情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ)

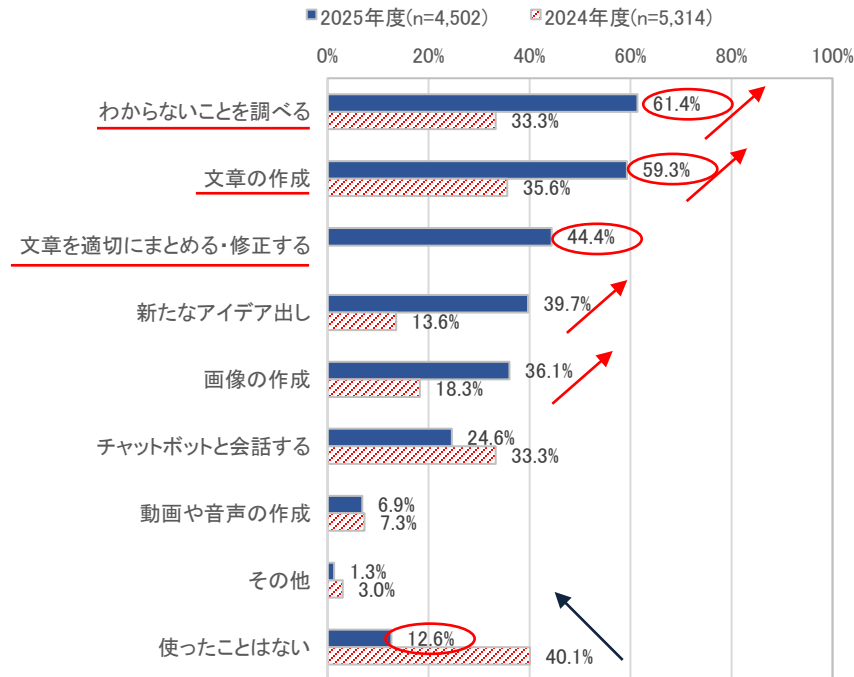


④生成AIの利用状況-使ったことがある生成AI-

- 生成AIについては、全体の12.6%が「使ったことはない」と回答。昨年度よりも大きく割合が減少した。【図表1】
- 使ったことがある生成AIとしては、「わからないことを調べる」(61.4%)が最も多く、「文章の作成」(59.3%)や「文章を適切にまとめる・修正する」(44.4%)が続く。【図表1】
- 生成AIを使ったことがない場合の、今後利用してみたいと思う使い方は、「わからないことを調べる」(20.5%)との回答が最も多く、「文章の作成」(14.3%)、「文章を適切にまとめる・修正する」(13.6%)が続く。【図表2】

【図表1】使ったことがある生成AI(複数回答)

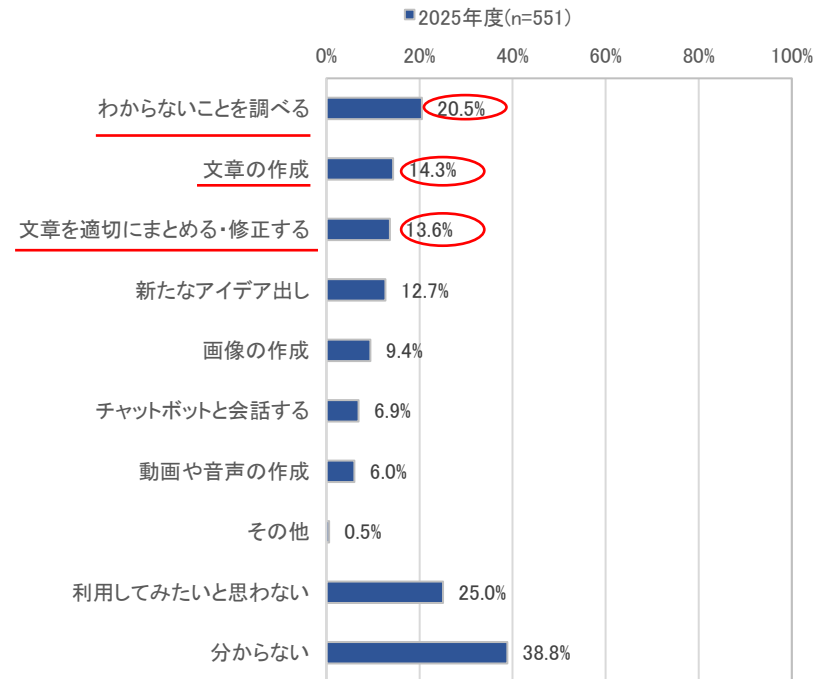
あなたが生成AI(文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」なども含みます。)で使ったことがあるものは何ですか。



【図表2】今後利用してみたいと思う使い方(複数回答)

(母数:使ったことがある生成AIについて、「使ったことはない」を選択した者のみ)

生成AIについて、今後利用してみたいと思う使い方はありますか。

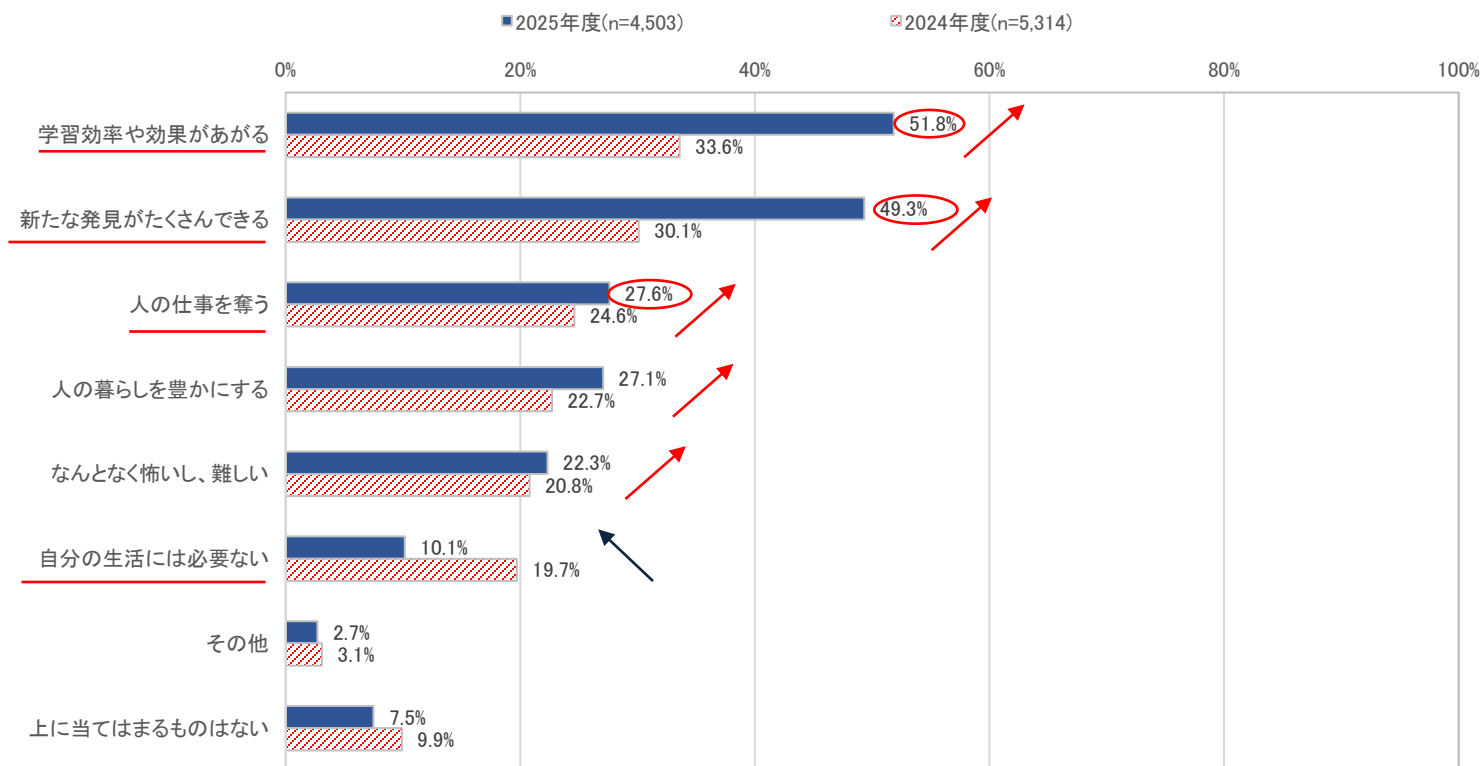


④生成AIの利用状況-生成AIのイメージ-

- 生成AIのイメージとしては、「**学習効率や効果があがる**」(51.8%)との回答が最も多く、「**新たな発見がたくさんできる**」(49.3%)、「**人の仕事を奪う**」(27.6%)が続く。
- 「**自分の生活には必要ない**」は前年度に比べて9.6ポイント低くなっている。

【図表】生成AIのイメージ(複数回答)

あなたの生成AIのイメージについてお答えください。



(3) アンケート結果(中学生)

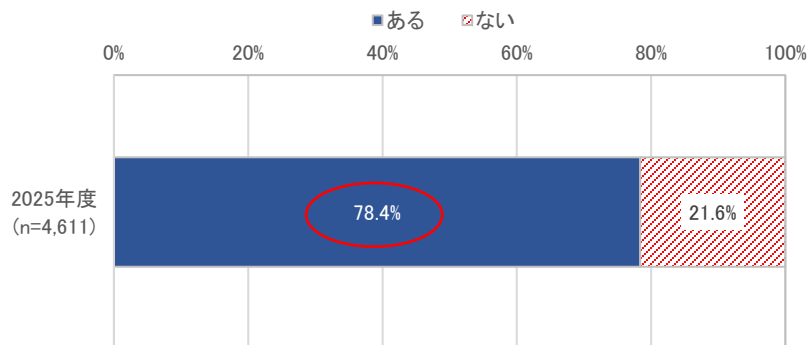
- ①家庭でのルールの有無の状況
- ②学校における取組の状況
- ③トラブル遭遇時の対応
- ④生成AIの利用状況

①家庭でのルールの有無の状況-家庭でのルールの有無・内容とILAS結果-

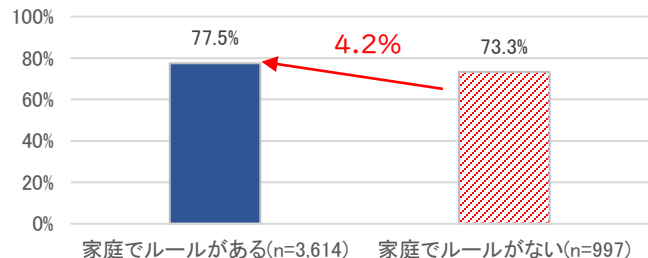
- SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の78.4%が「ある」と回答。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、「使用時刻の制限」(40.9%)が最も多く、次いで「情報公開(個人情報)の制限」(39.1%)が多い。【図表2】
- 家庭でのルールがある者の正答率は、家庭でのルールがない者に比べ、4.2%高い。【図表3】

インターネット利用について、家庭ではどのようなルールがありますか。

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

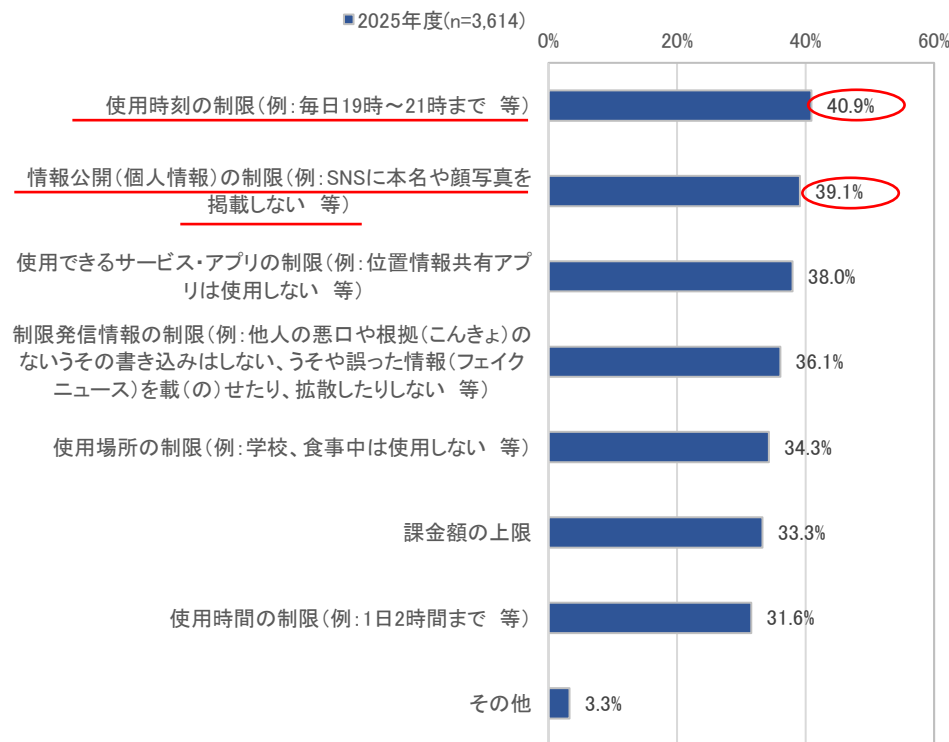


【図表3】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)



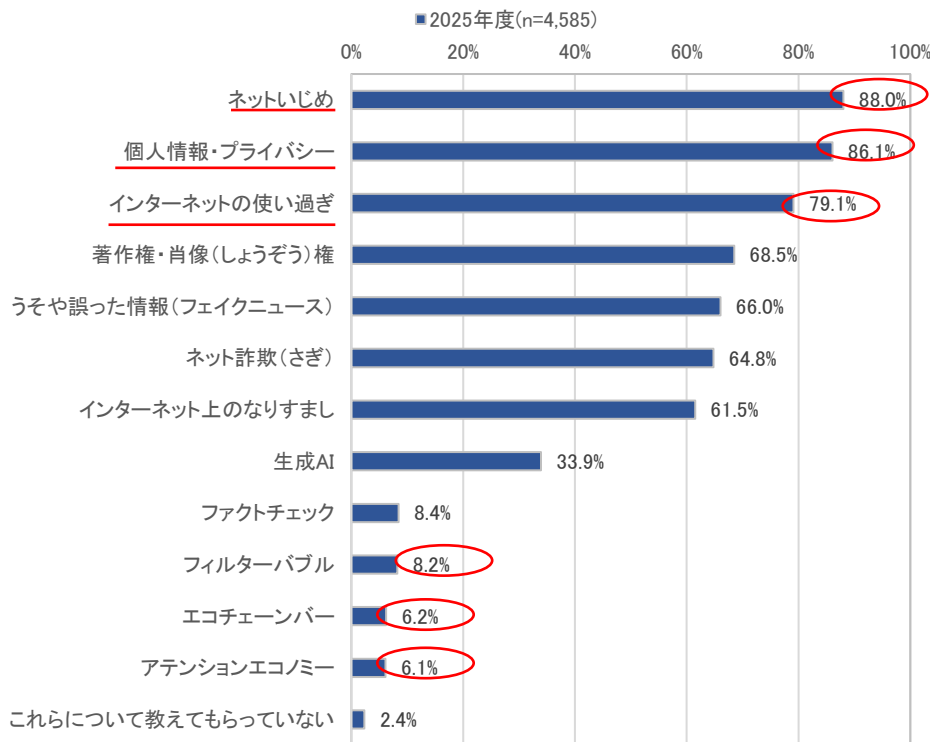
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

②学校における取組の状況 -学校での学習内容及び学習の有無とILAS結果-

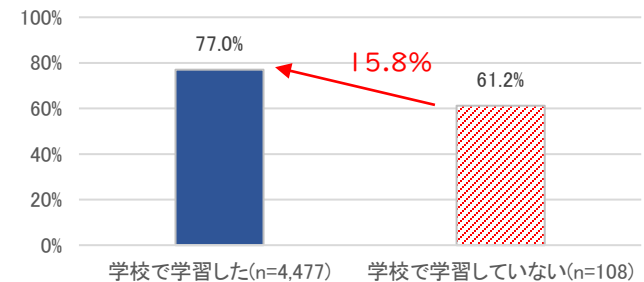
- 学校で教わったインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策について「ネットいじめ」(88.0%)、「個人情報・プライバシー」(86.1%)、「インターネットの使い過ぎ」(79.1%)の回答率が高い。【図表1】
- 偽・誤情報等の流通・拡散の構造的な要因とも指摘されている「フィルターバブル」(8.2%)、「エコーチェンバー」(6.2%)、「アテンションエコノミー」(6.1%)についても学校で教えられたことがあると回答。【図表1】
- 学校でインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策を教わった者の方が、教えてもらっていない者より、ILASテストの正答率が15.8%高い。【図表2】

インターネットを利用するにあたっての注意点、または対応策について、次の中であなたが学校で教えてもらったことはありますか。

【図表1】学校で教えられた内容(複数回答)



【図表2】学校での学習の有無(択一回答)と正答率



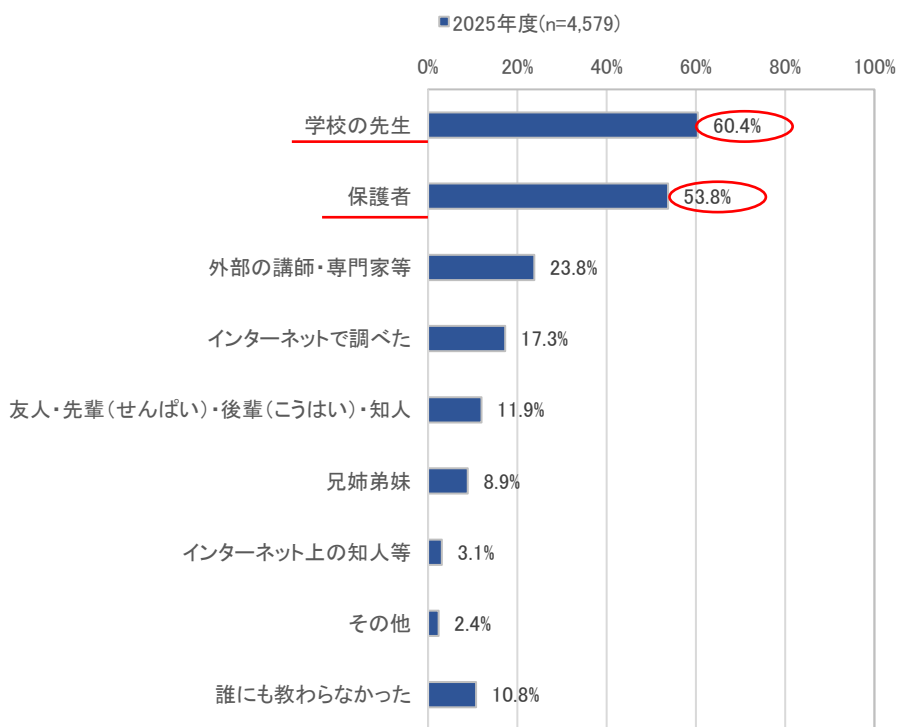
※「これらについて教えてもらっていない」と回答した者を「学習がない者」、「これらについて教えてもらっていない」と回答した者以外を「学習がある者」としている。

②学校における取組の状況 -偽・誤情報、生成AIに関する学習の有無-

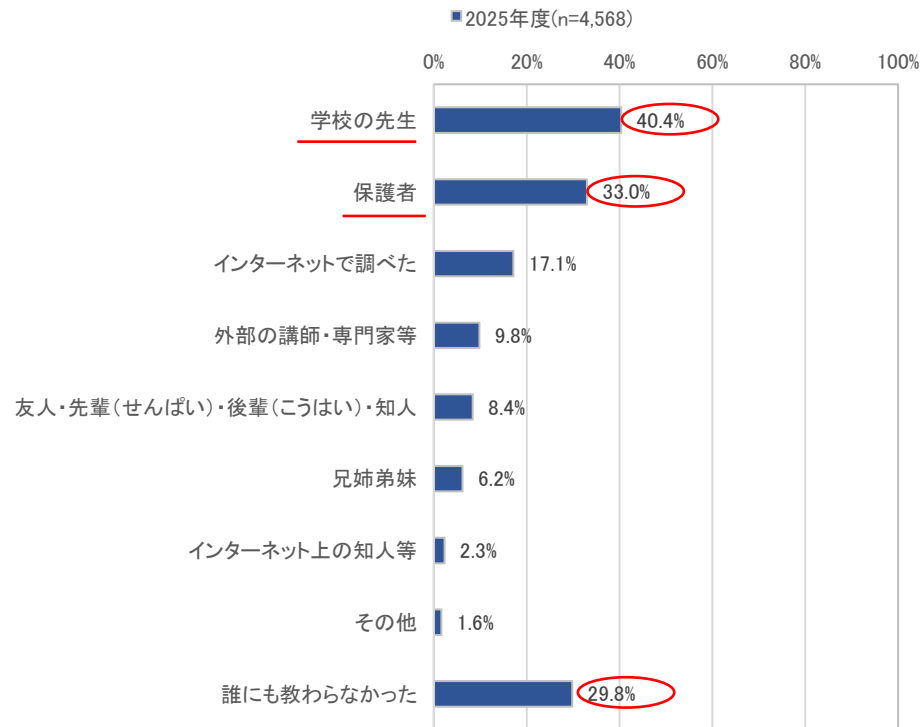
- 偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点等を教わった相手について、「**学校の先生**」（60.4%）、「**保護者**」（53.8%）の回答率が高い。【図表1】
- 生成AIに関する危険や注意点等を教わった相手について、「**学校の先生**」（40.4%）、「**保護者**」（33.0%）の回答率が高いが、一方で「**誰にも教わらなかった**」という回答も多い（29.8%）。【図表2】

今までに、インターネット上の偽・誤情報（フェイクニュース）/生成AIについて、危険や注意点等について、誰かに教わったことはありますか。

【図表1】偽・誤情報（フェイクニュース）に関する危険や注意点、対応策について教えてもらったことがある人（複数回答）



【図表2】生成AIに関する危険や注意点について教えてもらったことがある人（複数回答）

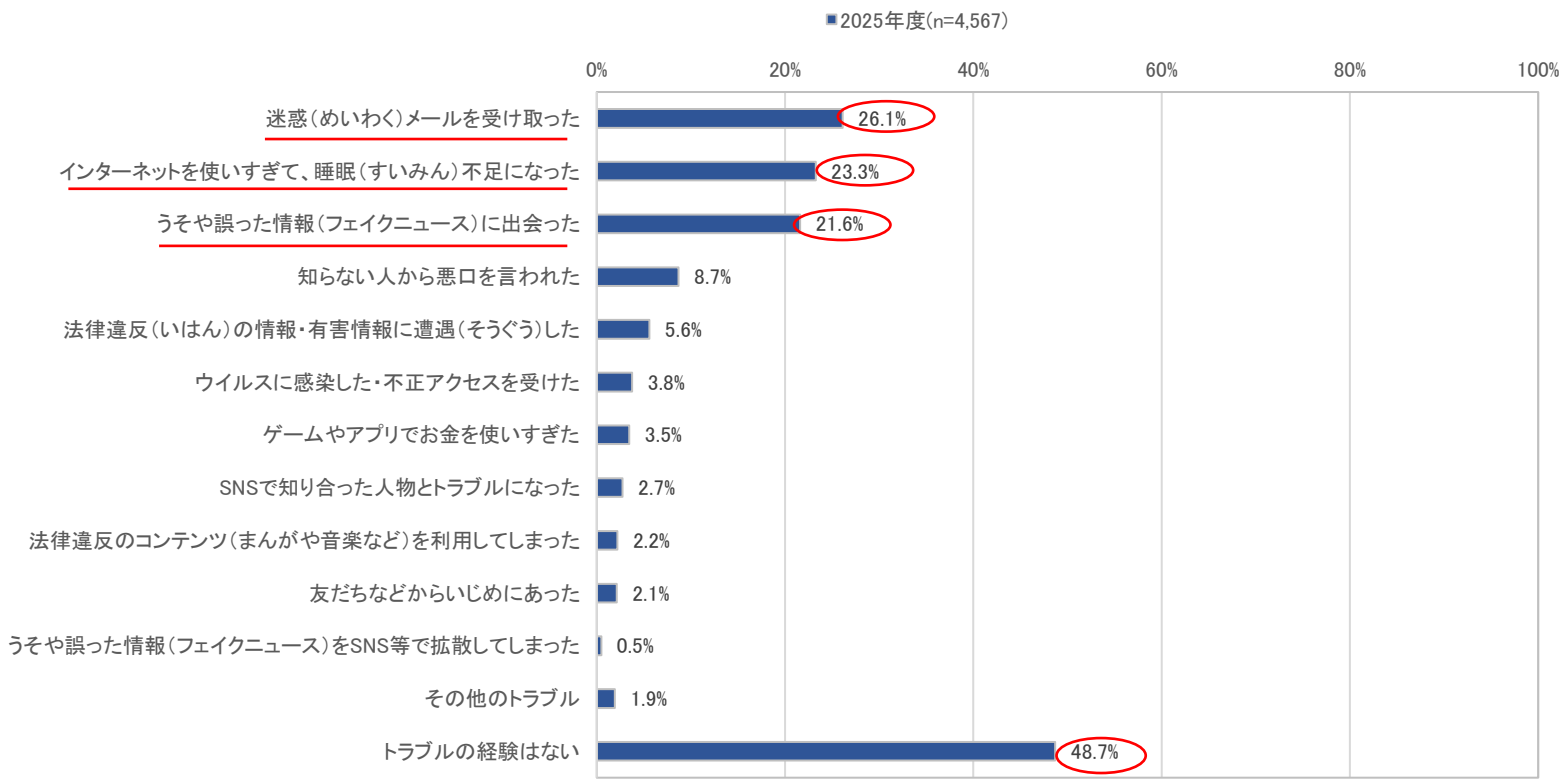


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇状況-

- 全体の**48.7%**が、インターネット利用に際して、「**トラブルの経験はない**」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「**迷惑(めいわく)メールを受け取った**」(26.1%)との回答が最も多く、「**インターネットを使い過ぎて睡眠(すいみん)不足になった**」(23.3%)、「**うそや誤った情報(フェイクニュース)に出会った**」(21.6%)との回答が続く。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

あなたはインターネットを使っているとき、次のような経験はありますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

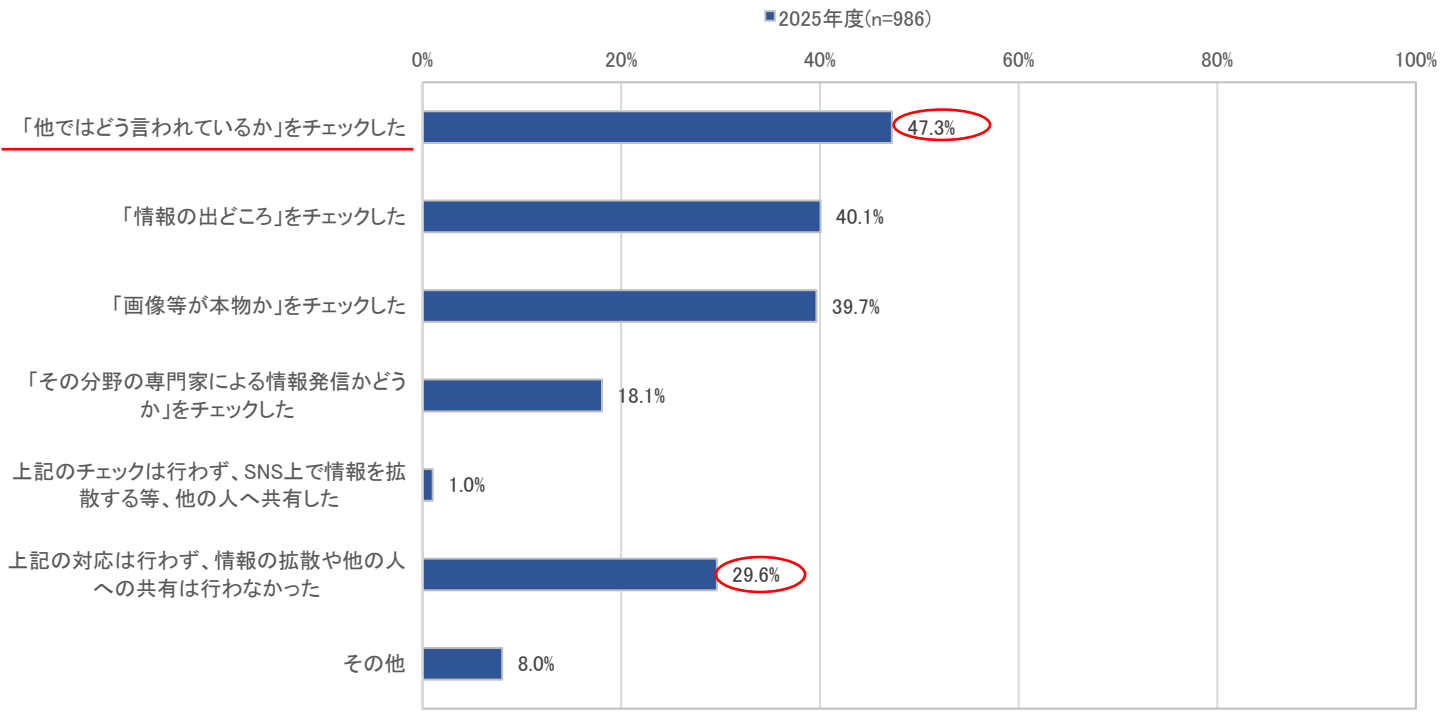
③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報(フェイクニュース)遭遇時の対応-

- 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応については、47.3%が、「他ではどう言われているか」をチェックした」と回答。
- 「対応は行わず、情報の拡散や情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」との回答が29.6%。

【図表】偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応(複数回答)

(母数:トラブル遭遇経験について、「うそや誤った情報(フェイクニュース)に出会った」「うそや誤った情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ)

インターネット上で偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際に、あなたはどのような対応をしましたか。



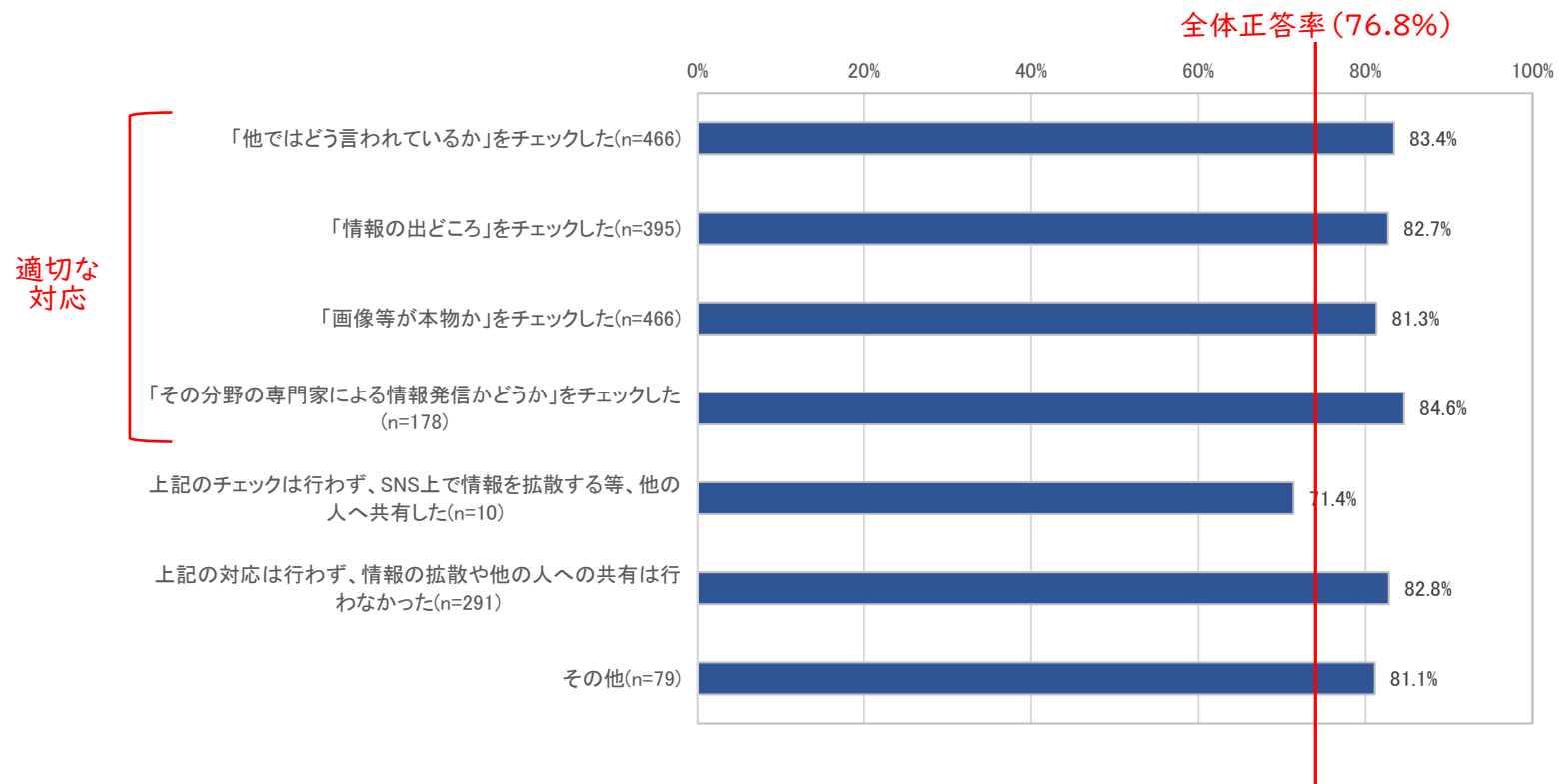
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

③トラブル遭遇時の対応 -偽・誤情報遭遇時の対応とILAS結果-

- 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際に適切な対応をとっている者の正答率は全体正答率を超え、「SNS上で情報を拡散する等、他の人へ共有した」などの適切でない対応をとっている者の正答率は、全体正答率より低い傾向がみられた。
- 一方で、適切な対応をとっている者と「対応は行わず、情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」者の正答率は、ほぼ同程度となった。

【図表】偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した際の対応(複数回答)と正答率

(母数:トラブル遭遇経験について、「うそや誤った情報(フェイクニュース)に出会った」「うそや誤った情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」を選択した者のみ)



適切な対応

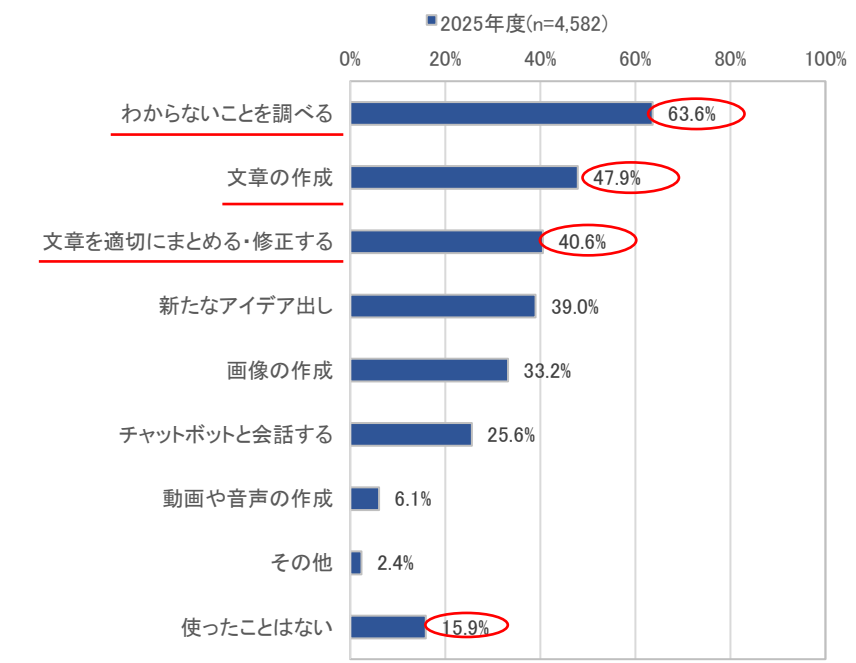
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

④生成AIの利用状況-使ったことがある生成AI-

- 生成AIについては、全体の15.9%が「使ったことはない」と回答。【図表1】
- 使ったことがある生成AIとしては、「わからないことを調べる」(63.6%)が最も多く、「文章の作成」(47.9%)や「文章を適切にまとめる・修正する」(40.6%)が続く。【図表1】
- 生成AIを使ったことがない場合の、今後利用してみたいと思う使い方は、「わからないことを調べる」(24.6%)との回答が最も多く、「新たなアイデア出し」(15.9%)、「文章の作成」(13.1%)が続く。【図表2】

【図表1】使ったことがある生成AI(複数回答)

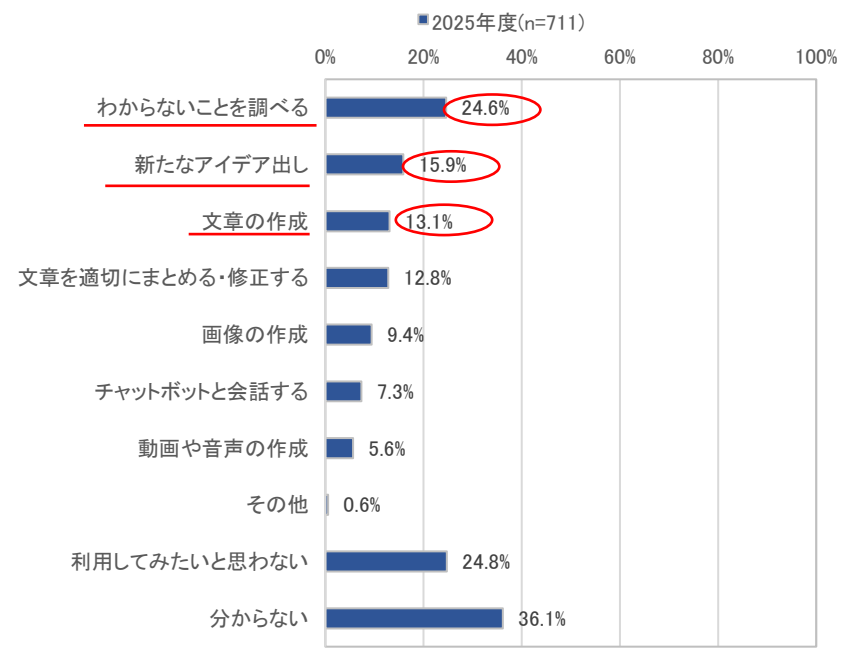
あなたが生成AI(文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」などもふくみます。)で使ったことがあるものは何ですか。



【図表2】今後利用してみたいと思う使い方(複数回答)

(母数:使ったことがある生成AIについて、「使ったことはない」を選択した者のみ)

生成AIについて、今後利用してみたいと思う使い方はありますか。



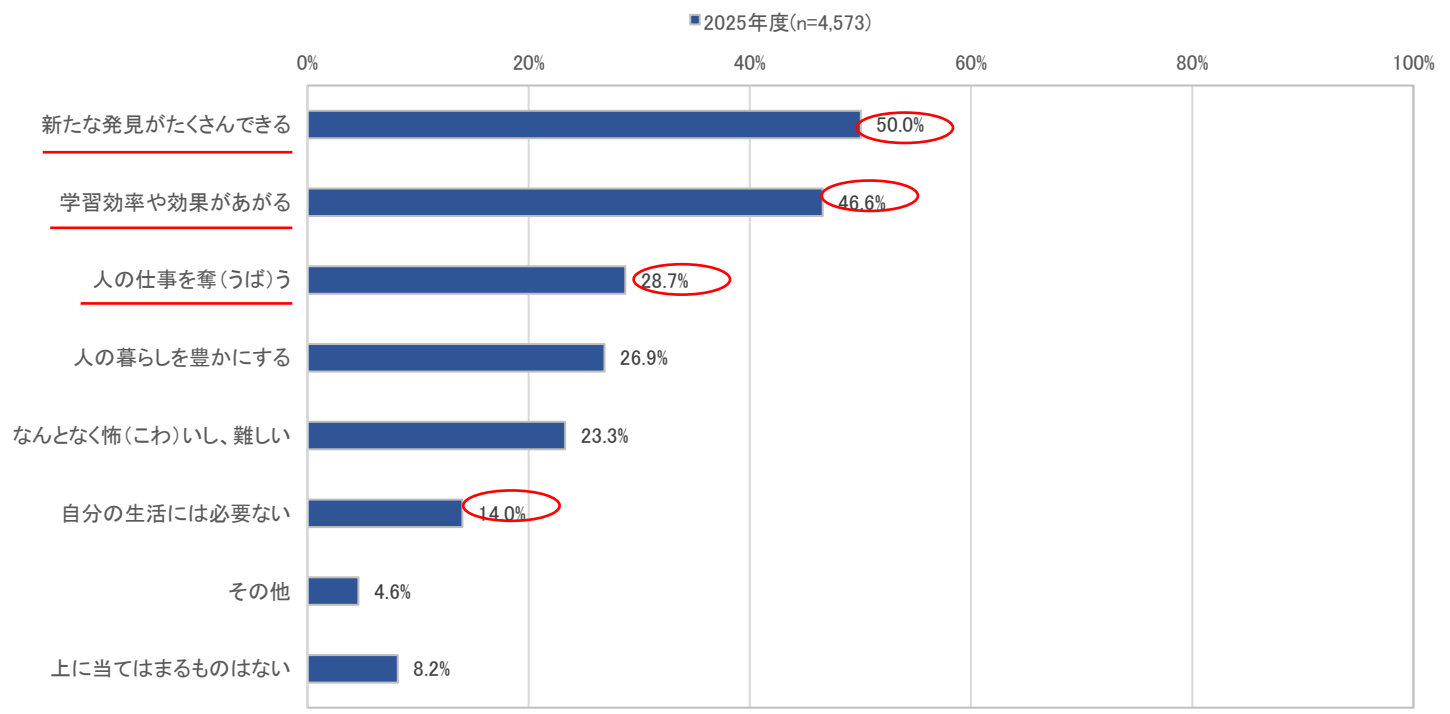
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

④生成AIの利用状況-生成AIのイメージ-

- 生成AIのイメージとしては、「**新たな発見がたくさんできる**」(50.0%)との回答が最も多く、「**学習効率や効果があがる**」(46.6%)、「**人の仕事を奪う**」(28.7%)が続く。
- 「**自分の生活には必要ない**」との回答が14.0%。

【図表】生成AIのイメージ(複数回答)

あなたの生成AIのイメージについてお答えください。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

(4) アンケート結果(小学校高学年)

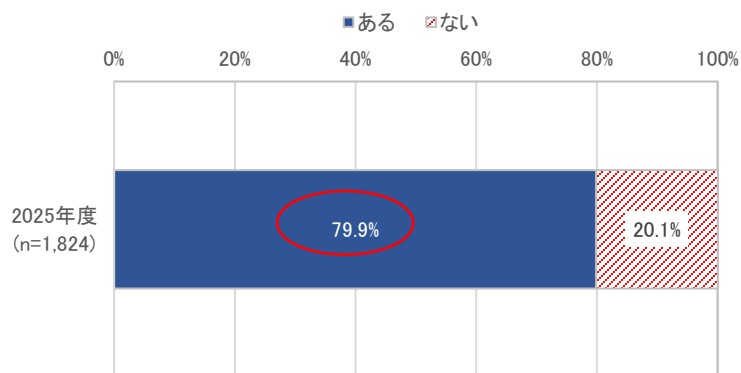
- ①家庭でのルールの有無の状況
- ②学校における取組の状況
- ③トラブル遭遇時の対応
- ④スマートフォンの使い方を学んだ方法
- ⑤生成AIの利用状況

①家庭でのルールの有無の状況-家庭でのルールの有無・内容とILAS結果-

- SNS等のインターネット利用に関する家庭でのルールの有無について、全体の79.9%が「ある」と回答。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、「一日何時間使っていいかを定める」(44.8%)が最も多く、次いで「使っていい時間帯を定める」(29.7%)が多い。【図表2】
- 家庭でのルールがある者の正答率は、家庭でのルールがない者に比べ、8.2%高い。【図表3】

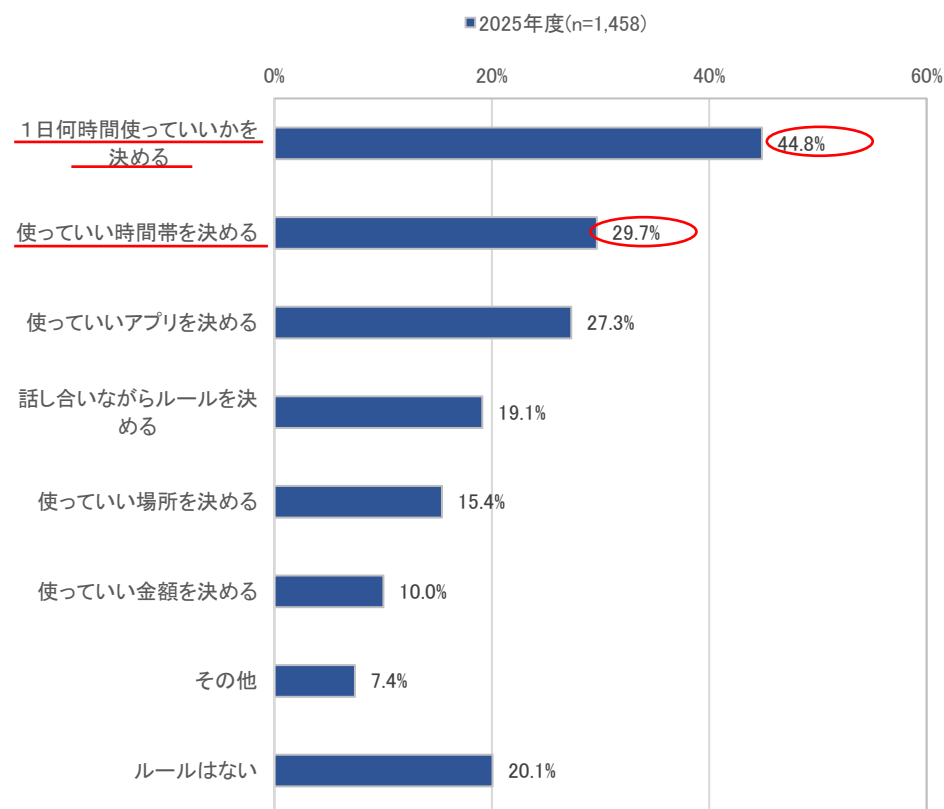
インターネットを使うとき、おうちではどのようなルールがありますか。

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

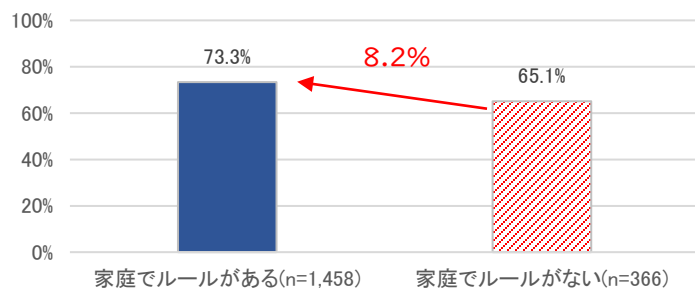


【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)



【図表3】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

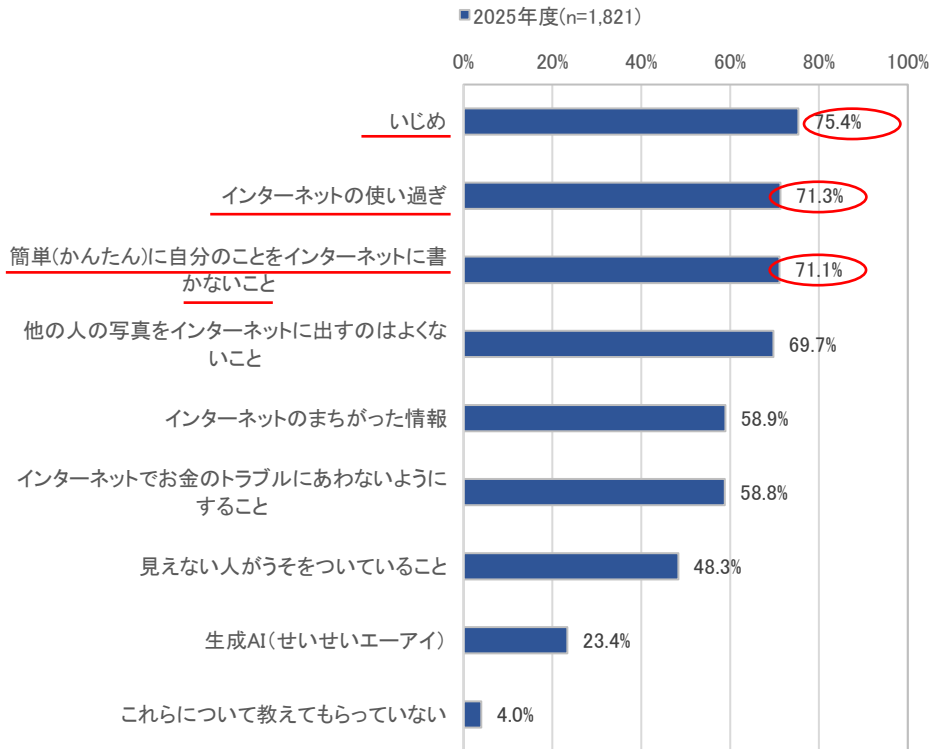


②学校における取組の状況 -学校での学習内容及び学習の有無とILAS結果-

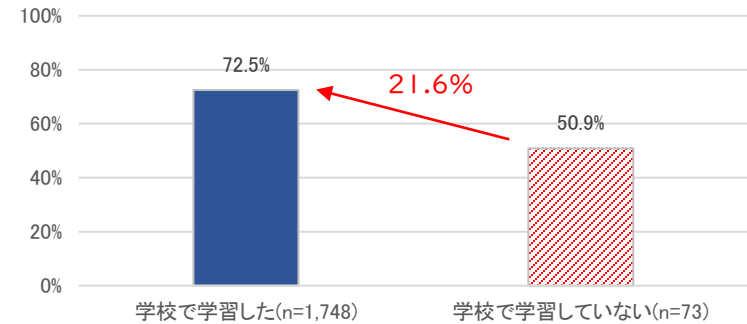
- 学校で教わったインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策について「いじめ」(75.4%)、「インターネットの使い過ぎ」(71.3%)、「簡単(簡単)に自分のことをインターネットに書かないこと」(71.1%)の回答率が高い。【図表1】
- 学校でインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策を教わった者の方が、教えてもらっていない者より、ILASテストの正答率が21.6%高い。【図表2】

インターネットを使うときに気をつけるよう学校から教えてもらったことは何ですか。

【図表1】学校で教えられた内容(複数回答)



【図表2】学校での学習の有無(択一回答)と正答率



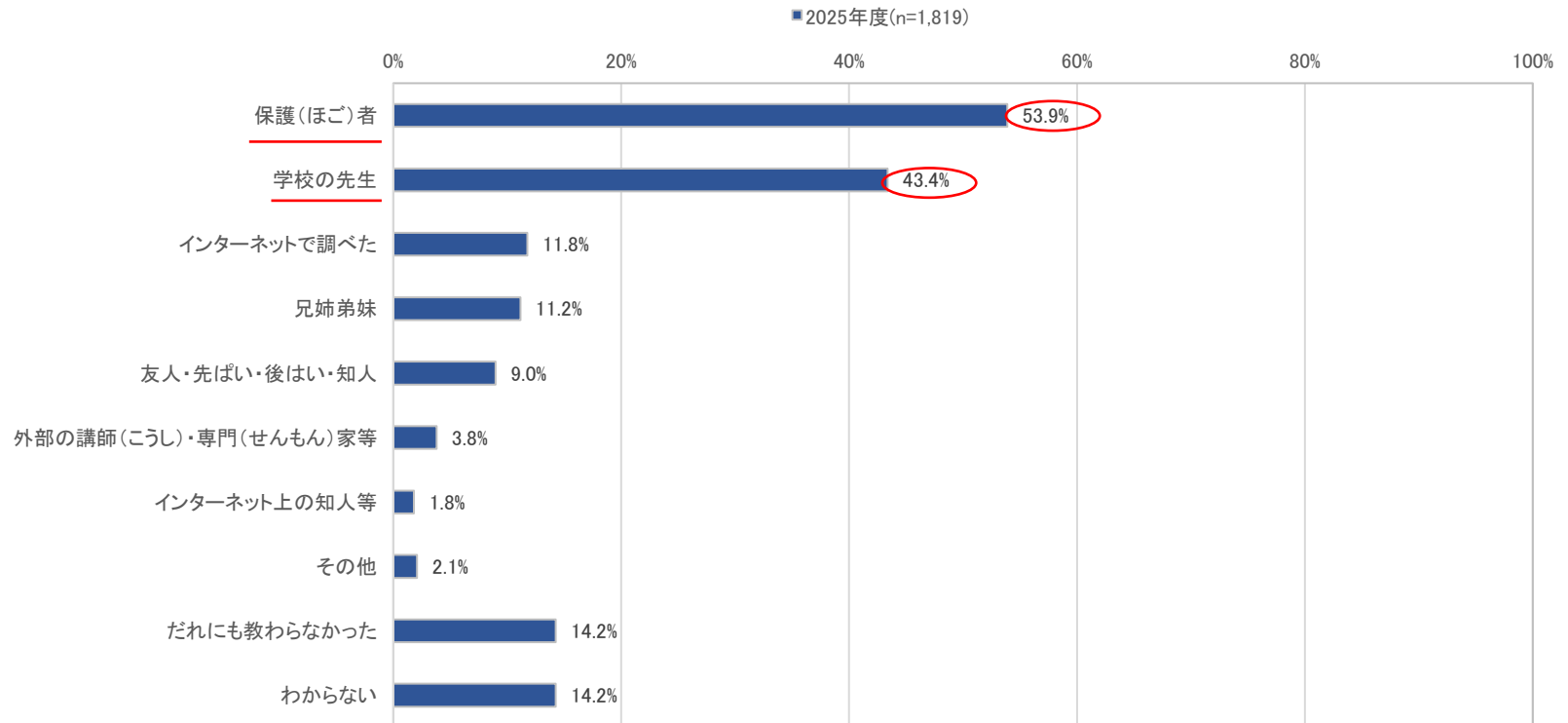
※「これらについて教えてもらっていない」と回答した者を「学習がない者」、「これらについて教えてもらっていない」と回答した者以外を「学習がある者」としている。

②学校における取組の状況 -生成AIに関する学習の有無-

- 生成AIに関する危険や注意点等を教わった相手について、**保護(ほご)者**(53.9%)、「**学校の先生**」(43.4%)の回答率が高い。

【図表】生成AIに関する危険や注意点について教えてもらったことがある人(複数回答)

今までに、AIを利用(りよう)するにあたっての危険(きけん)や注意点について、だれかに教わったことはありますか。

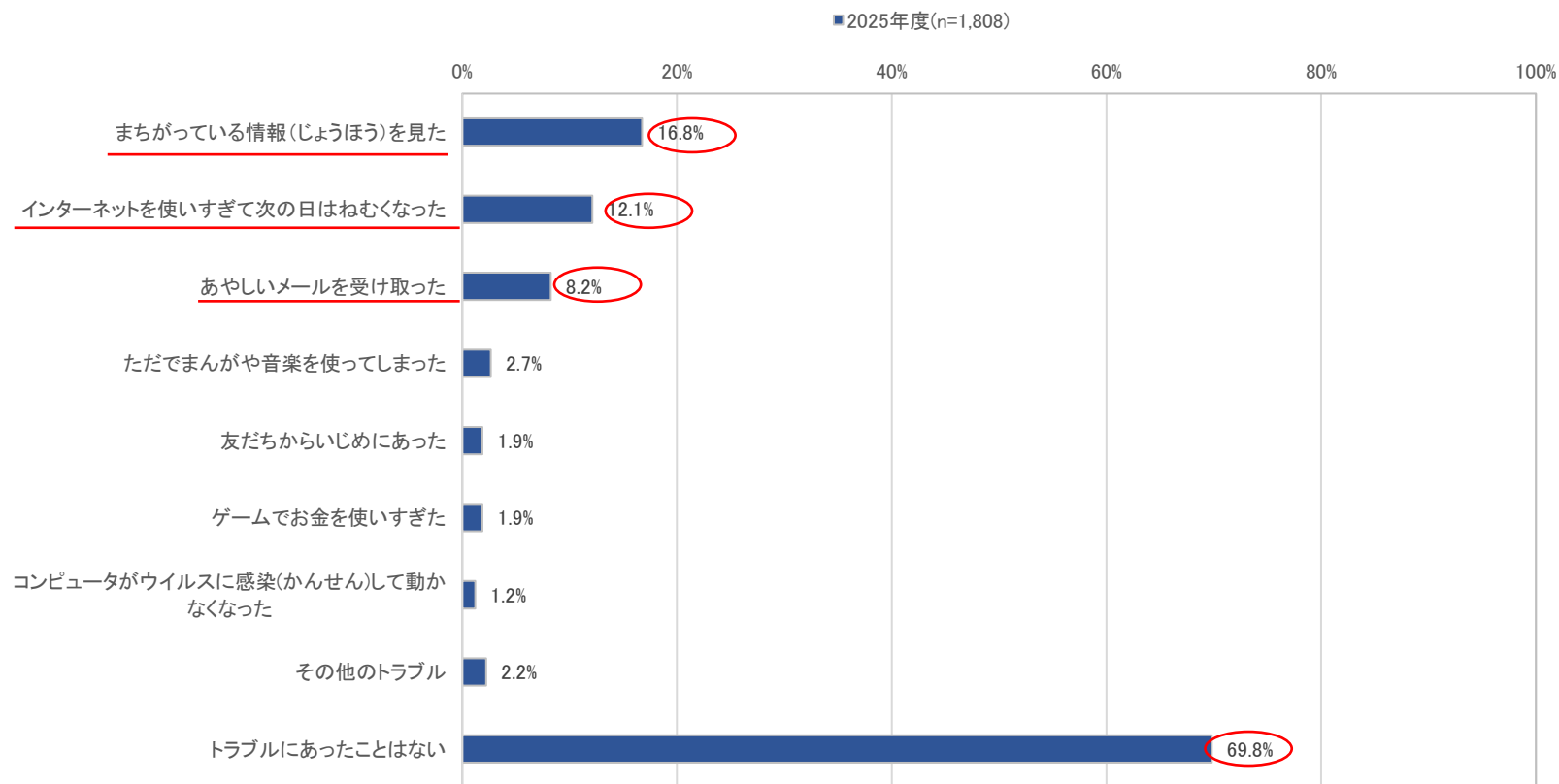


③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇状況-

- 全体の69.8%が、インターネット利用に際して、「トラブルにあったことはない」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「まちがっている情報(じょうほう)を見た」(16.8%)との回答が最も多く、「インターネットを使いすぎて次の日はねむくなった」(12.1%)、「あやしいメールを受け取った」(8.2%)との回答が続く。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

インターネットを使っているとき、下のトラブルにあったことはありますか。

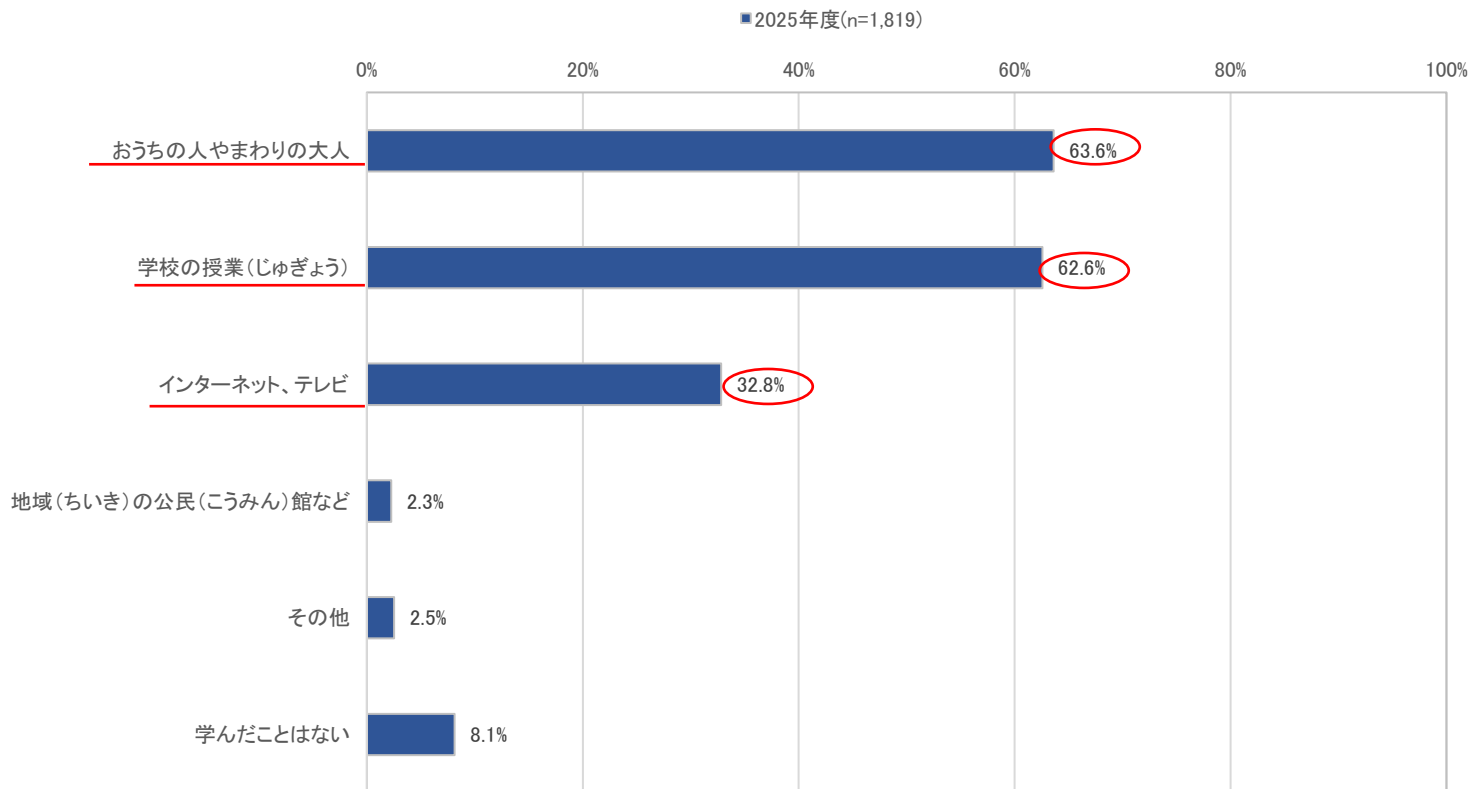


④スマートフォンの使い方を学んだ方法

- スマートフォンの使い方を学んだ方法については、「**おうちの人やまわりの大人**」(63.6%)との回答が最も多く、「**学校の授業(じゅぎょう)**」(62.6%)、「**インターネット、テレビ**」(32.8%)との回答が続く。

【図表】スマートフォンの使い方を学んだ方法(複数回答)

スマホの使い方について、どのように学びましたか。



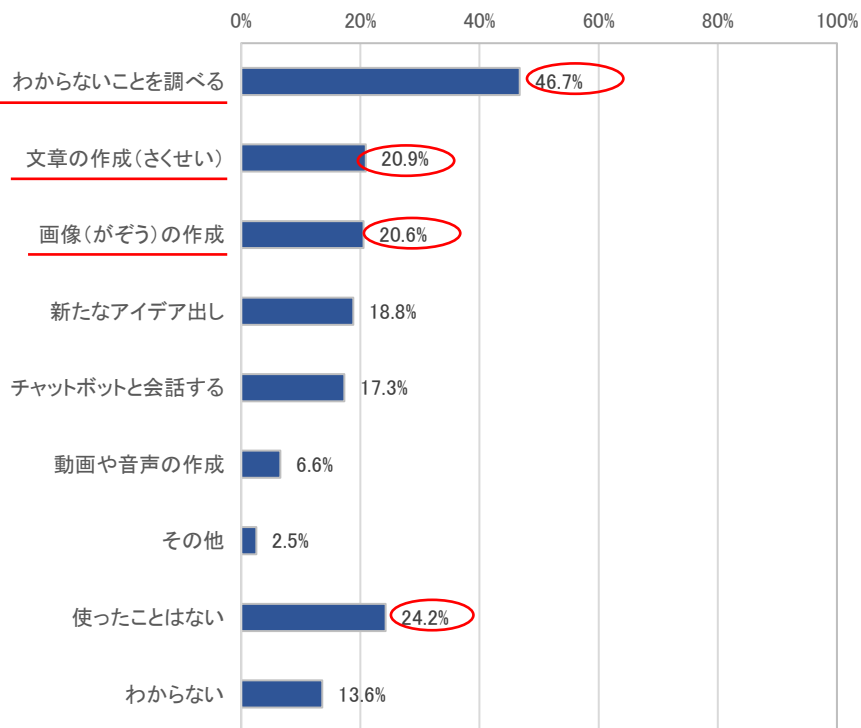
⑤生成AIの利用状況-使ったことがある生成AI-

- 生成AIについては、全体の**24.2%**が「**使ったことはない**」と回答。【図表1】
- 使ったことがある生成AIとしては、「**わからないことを調べる**」(46.7%)が最も多く、「**文章の作成(さくせい)**」(20.9%)や「**画像(がぞう)の作成**」(20.6%)が続く。【図表1】
- 生成AIを使ったことがない場合の、今後利用してみたいと思う使い方は、「**わからないことを調べる**」(25.5%)との回答が最も多く、「**新たなアイデア出し**」(14.5%)、「**画像(がぞう)の作成**」(11.7%)が続くが、「**利用してみたいと思わない**」との回答が**47.9%**。【図表2】

【図表1】使ったことがある生成AI(複数回答)

あなたが生成AI(文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」などもふくみます。)で使ったことがあるものは何ですか。

■ 2025年度(n=1,819)

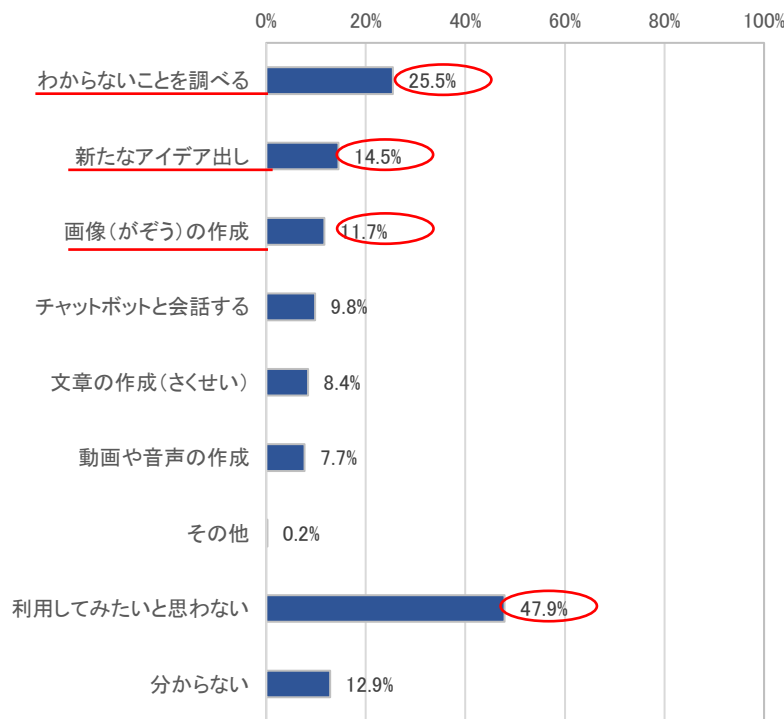


【図表2】今後利用してみたいと思う使い方(複数回答)

(母数:使ったことがある生成AIについて、「使ったことは無い」を選択した者のみ)

生成(せいせい)AIについて、今後利用(りよう)してみたいと思う使い方はありますか

■ 2025年度(n=428)

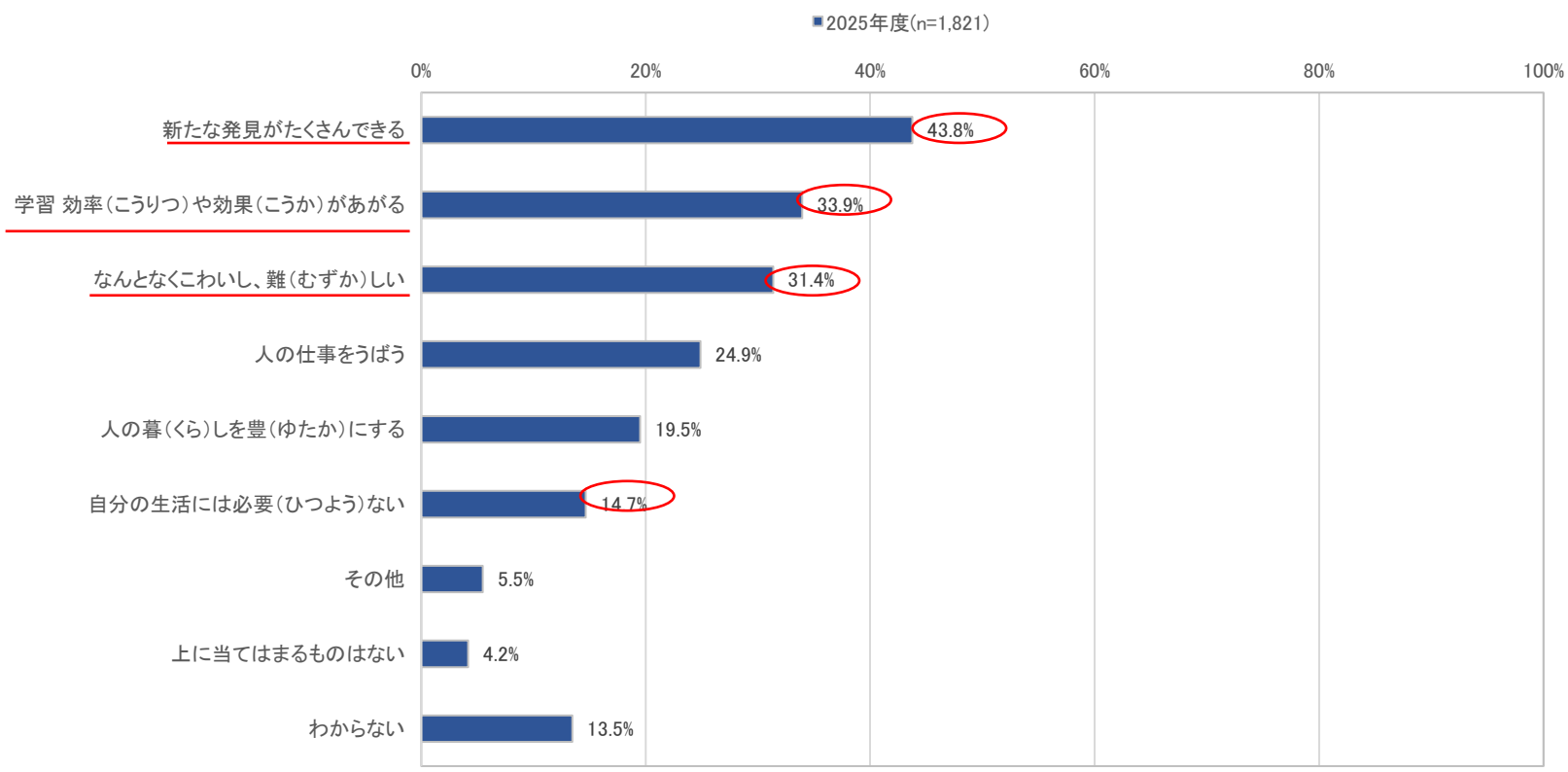


⑤生成AIの利用状況-生成AIのイメージ-

- 生成AIのイメージとしては、「**新たな発見がたくさんできる**」(43.8%)との回答が最も多く、「**学習効率や効果があがる**」(33.9%)、「**なんとなくこわいし、難(むずかしい)**」(31.4%)が続く。
- 「自分の生活には必要ない」との回答が14.7%。

【図表】生成AIのイメージ(複数回答) (n=1,821)

あなたAIのイメージについてお答えください。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも小学校高学年)の結果を基に作成。

(6) アンケート結果(小学校低学年)

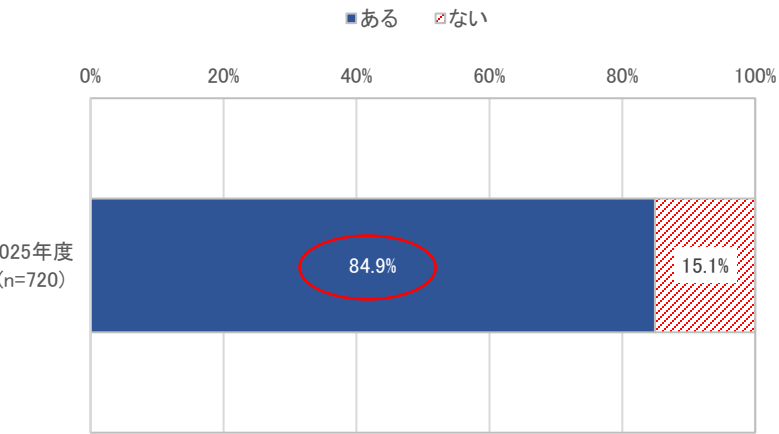
- ①家庭でのルールの有無の状況
- ②学校における取組の状況
- ③トラブル遭遇時の対応
- ④スマートフォンの使い方を学んだ方法

①家庭でのルールの有無の状況-家庭でのルールの有無・内容とILAS結果-

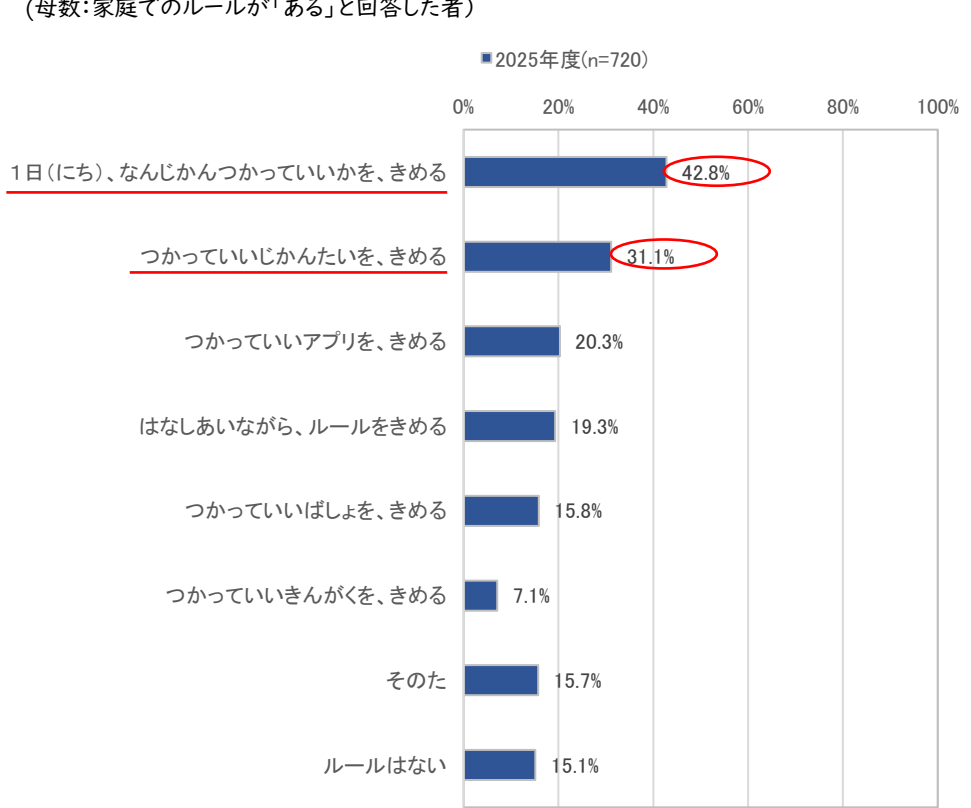
- SNS等のインターネット利用に関する**家庭でのルールの有無**について、**全体の84.9%**が「**ある**」と回答。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、「**1日(にち)なんじかんつかっていいかを定める**」(42.8%)が**最も多く**、次いで「**つかっていい時間帯を定める**」(31.1%)が多い。【図表2】
- 家庭での**ルールがある者**の**正答率**は、家庭でのルールがない者に比べ、**19.1%高い**。【図表3】

インターネットをつかうとき、おうちではどのようなルールがありますか。

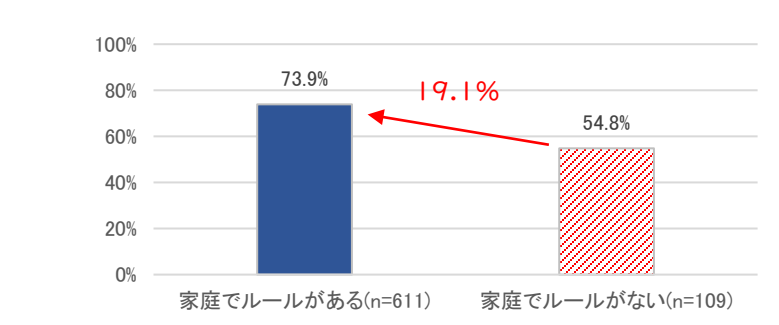
【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)
(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)



【図表3】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

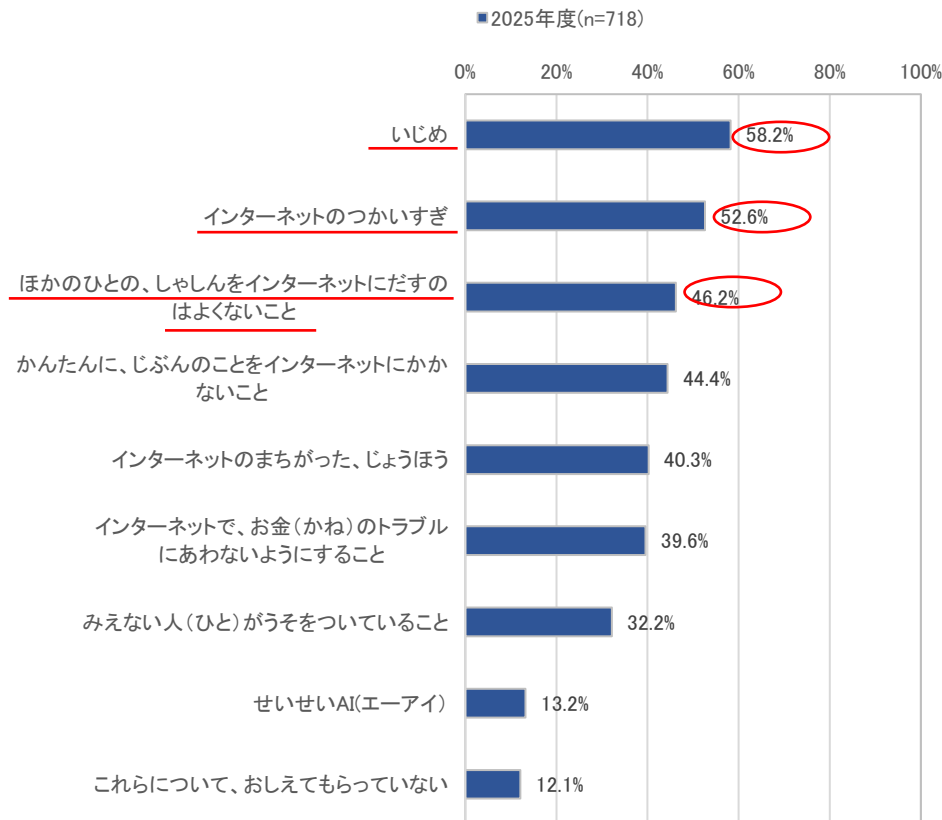


②学校における取組の状況 -学校での学習内容及び学習の有無とILAS結果-

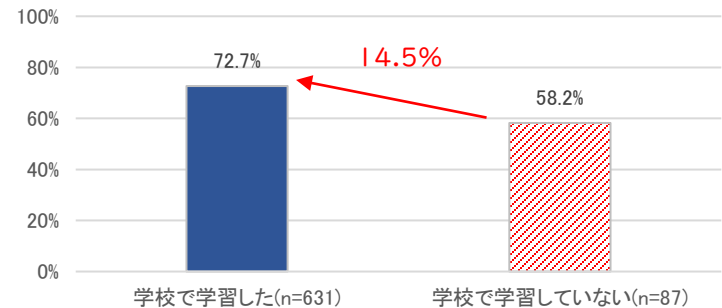
- 学校で教わったインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策について「いじめ」(58.2%)、「インターネットのつかいすぎ」(52.6%)、「ほかのひとの、しゃしんをインターネットにだすのはよくないこと」(46.2%)の回答率が高い。【図表1】
- 学校でインターネットを利用するにあたっての注意点や対応策を教わった者の方が、教えてもらっていない者より、ILASテストの正答率が14.5%高い。【図表2】

インターネットをつかうときに、きをつけるよう、学校(がっこう)からおしえてもらったことは、なんですか。

【図表1】学校で教えられた内容(複数回答)



【図表2】学校での学習の有無(択一回答)と正答率



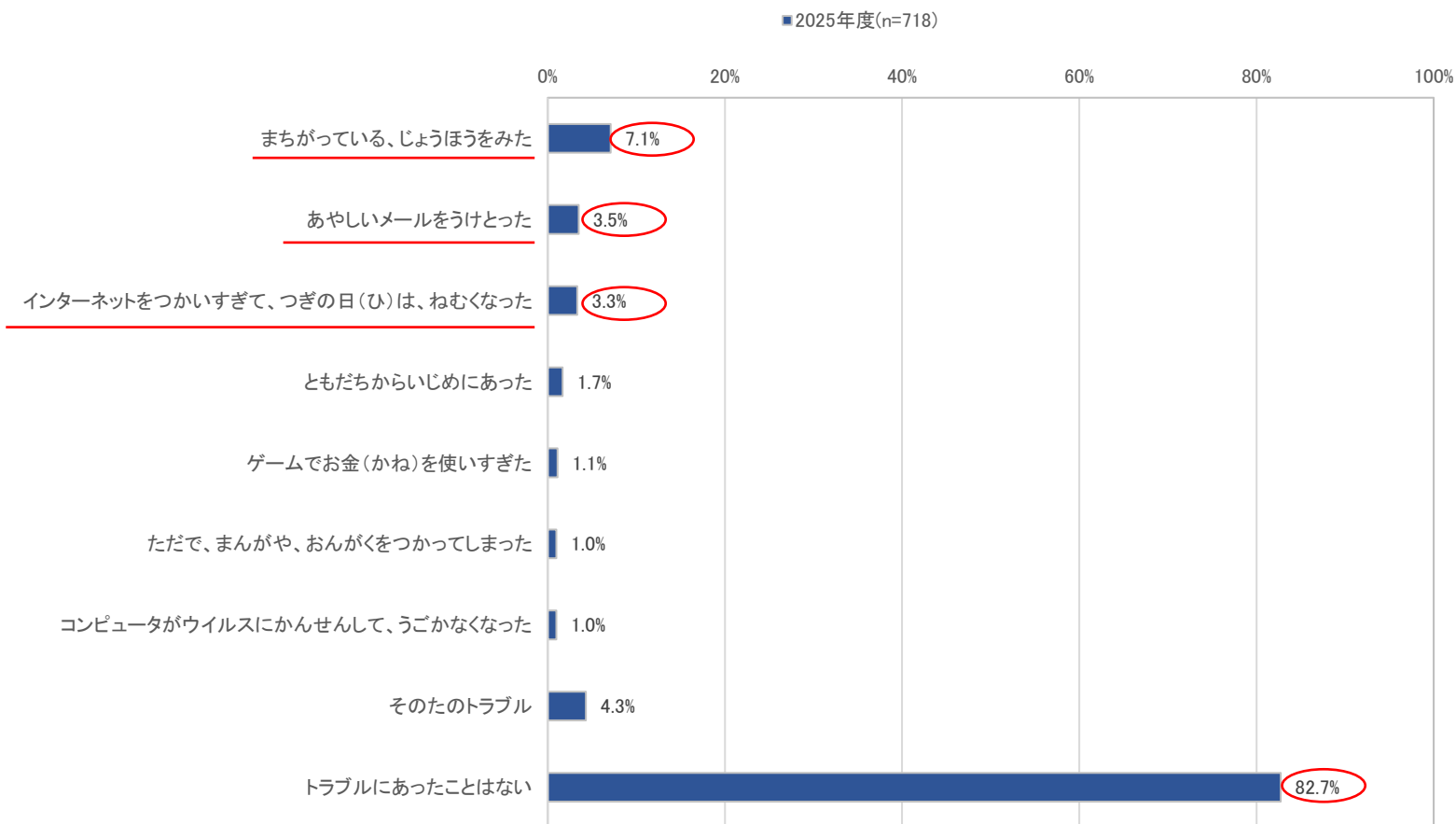
※「これらについて、おしえてもらっていない」と回答した者を「学習がない者」、「これらについて、おしえてもらっていない」と回答した者以外を「学習がある者」としている。

③トラブル遭遇時の対応 -トラブル遭遇状況-

- 全体の82.7%が、インターネット利用に際して、「トラブルにあったことはない」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「まちがっている、じょうほうをみた」(7.1%)との回答が最も多く、「あやしいメールをうけとった」(3.5%)、「インターネットをつかいすぎて、つぎの日(ひ)は、ねむくなった」(3.3%)との回答が続く。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

インターネットを使っているとき、下(した)のトラブルにあったことはありますか。

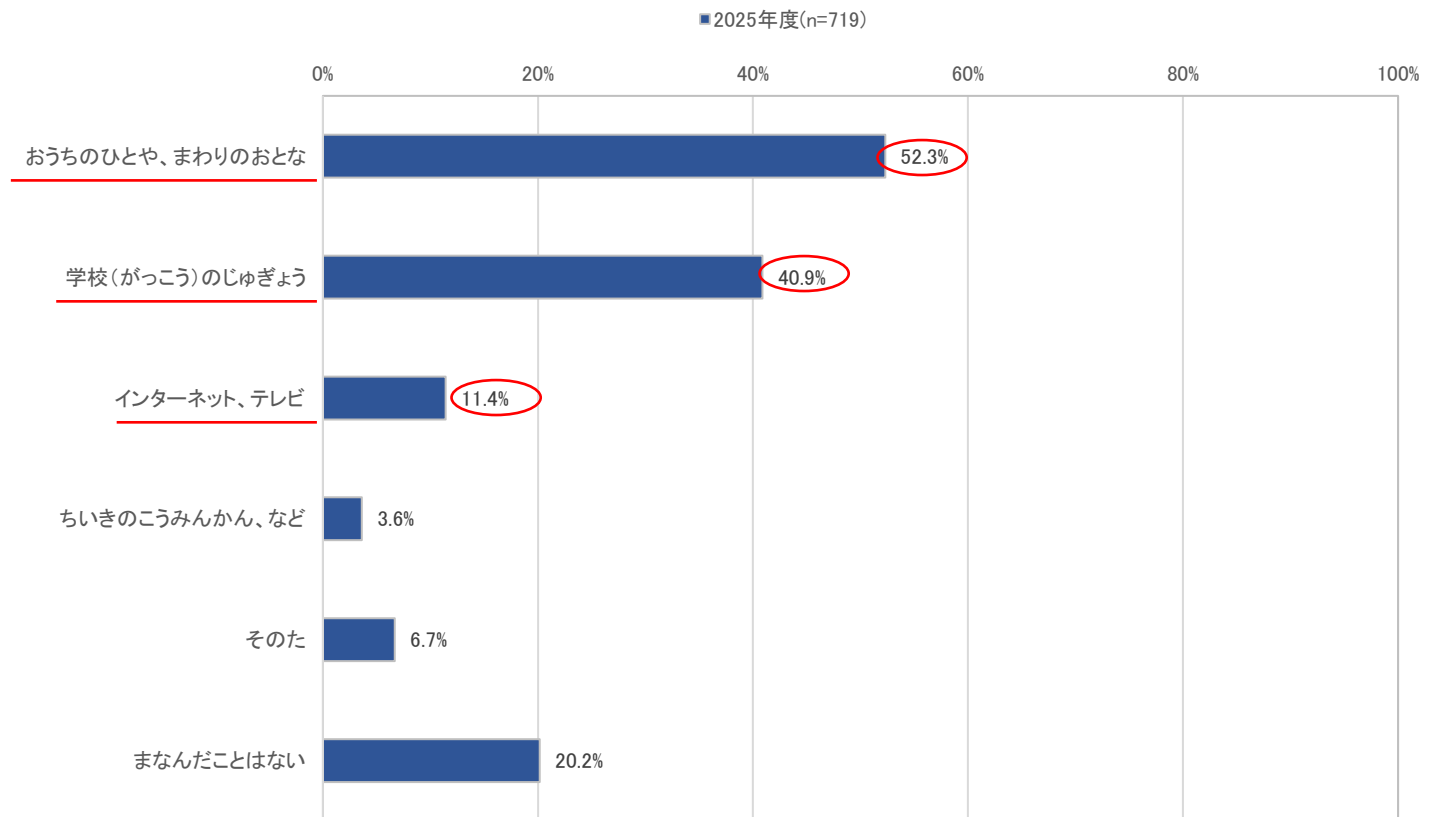


④スマートフォンの使い方を学んだ方法

- スマートフォンの使い方を学んだ方法については、「**おうちのひとや、まわりのおとな**」(52.3%)との回答が最も多く、「**学校(がっこう)のじゅぎょう**」(40.9%)、「**インターネット、テレビ**」(11.4%)との回答が続く。

【図表】スマートフォンの使い方を学んだ方法(複数回答)

スマホのつかいかたについて、どのように、まなびましたか。



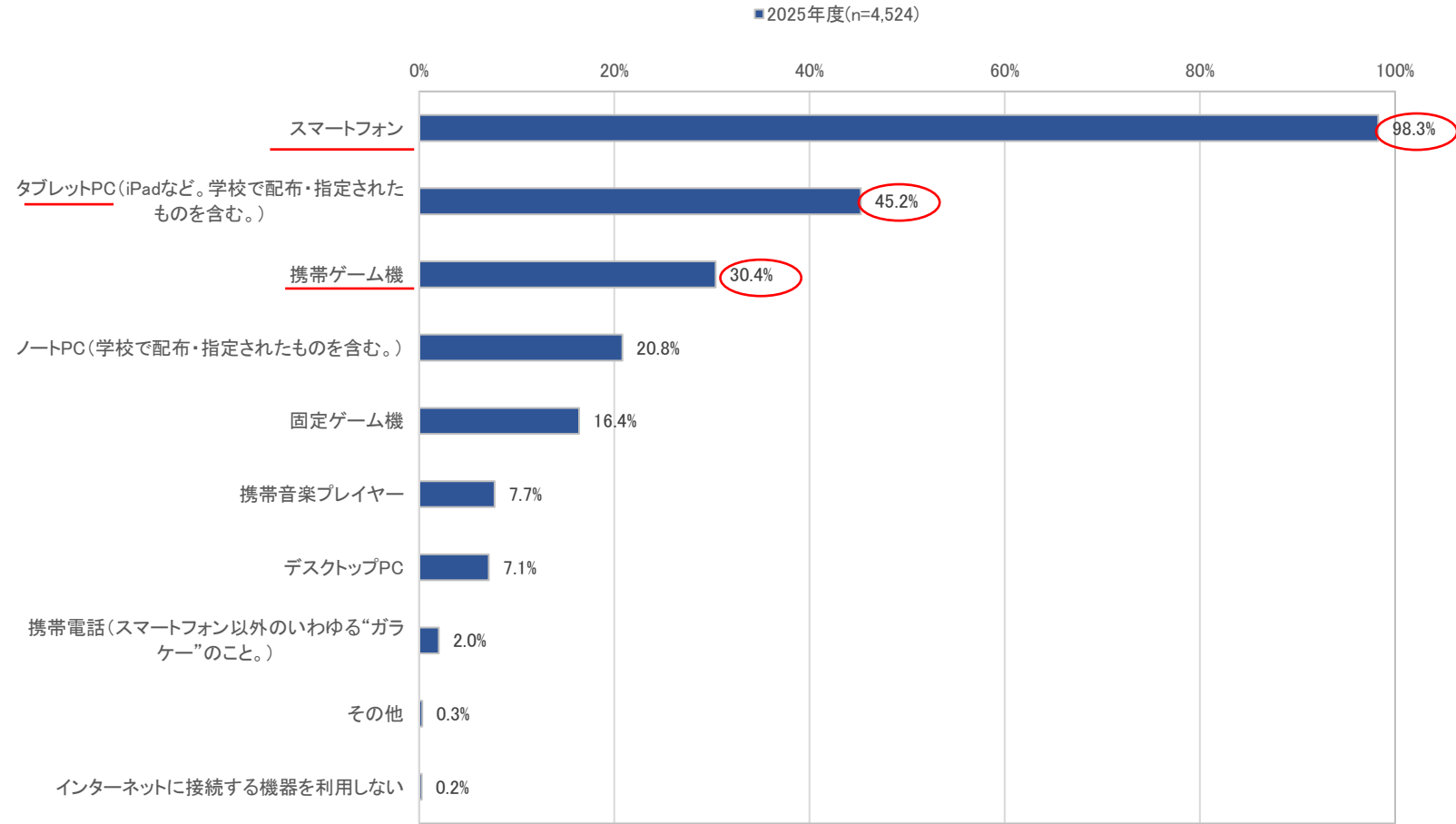
3. 参考

(参考) インターネット接続機器ごとの保有割合 (高校)

○ 全体の98.3%が、よく利用する機器について「スマートフォン」と回答、次いで「タブレットPC」(45.2%)、「携帯ゲーム機」(30.4%)と続く。

【図表】よく利用するインターネット接続機器 (複数回答)

あなたがよく利用するインターネット接続機器を教えてください。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

(参考) 平日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果(高校)

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は「2～3時間未満」との回答が最も多く(26.8%)、次いで「3～4時間未満」が24.8%と多い。また、56.8%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表】
- 平日のスマートフォン利用時間別にILASテストの総合正答率の違いの有無をみると、利用時間が1時間未満と、5時間を超える場合、正答率が低い傾向が見られた。【参考】

あなたが【平日】にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

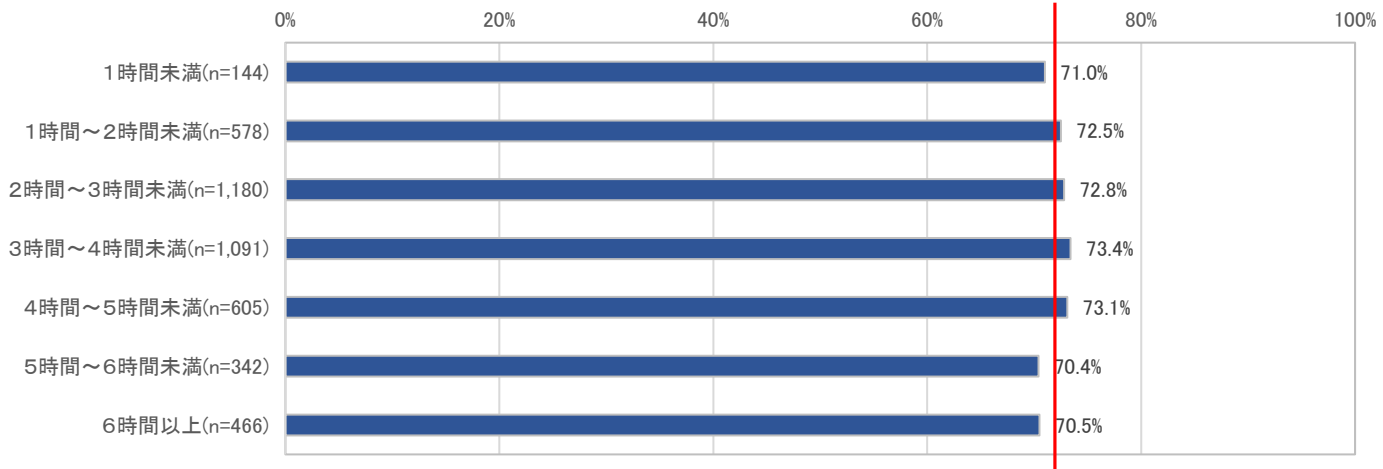
【図表】平日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	3.3%	13.1%	26.8%	24.8%	13.7%	7.8%	10.6%
携帯電話	44.7%	11.8%	15.3%	11.8%	5.9%	1.2%	9.4%
タブレットPC	40.0%	31.3%	14.2%	7.7%	3.4%	1.5%	1.9%
ノートPC/デスクトップPC	45.3%	24.2%	14.2%	7.5%	3.1%	1.9%	3.7%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	50.1%	27.7%	12.8%	4.5%	2.2%	0.7%	1.9%
携帯音楽プレイヤー	45.8%	28.1%	13.6%	4.9%	2.9%	0.9%	3.8%

計56.8%

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)
全体正答率(72.4%)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

(参考) 休日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果(高校)

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は「6時間以上」との回答が最も多い(30.0%)。【図表1】
- スマートフォンの平均利用時間が3時間以上利用者が8割超(80.3%)を占め、平日と比較すると全体の約24%増加している。【図表2】

あなたが【休日】にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

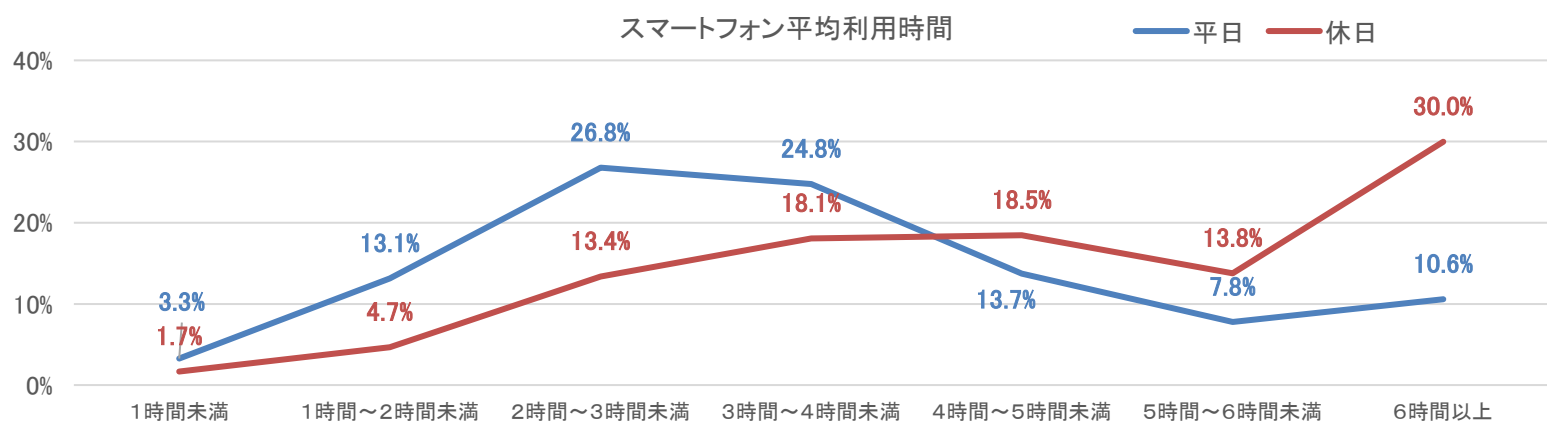
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6時間以上
スマートフォン	1.7%	4.7%	13.4%	18.1%	18.5%	13.8%	30.0%
携帯電話	41.9%	11.6%	12.8%	7.0%	8.1%	3.5%	15.1%
タブレットPC	56.8%	20.1%	10.6%	5.0%	2.2%	1.5%	3.8%
ノートPC/デスクトップPC	48.2%	15.6%	9.9%	8.1%	5.1%	3.3%	9.8%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	34.5%	25.5%	17.7%	9.8%	5.2%	2.1%	5.1%
携帯音楽プレイヤー	39.0%	29.7%	13.4%	5.8%	4.4%	2.6%	5.2%

計80.3%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】平日1日当たりと休日1日当たりの平均利用時間の比較



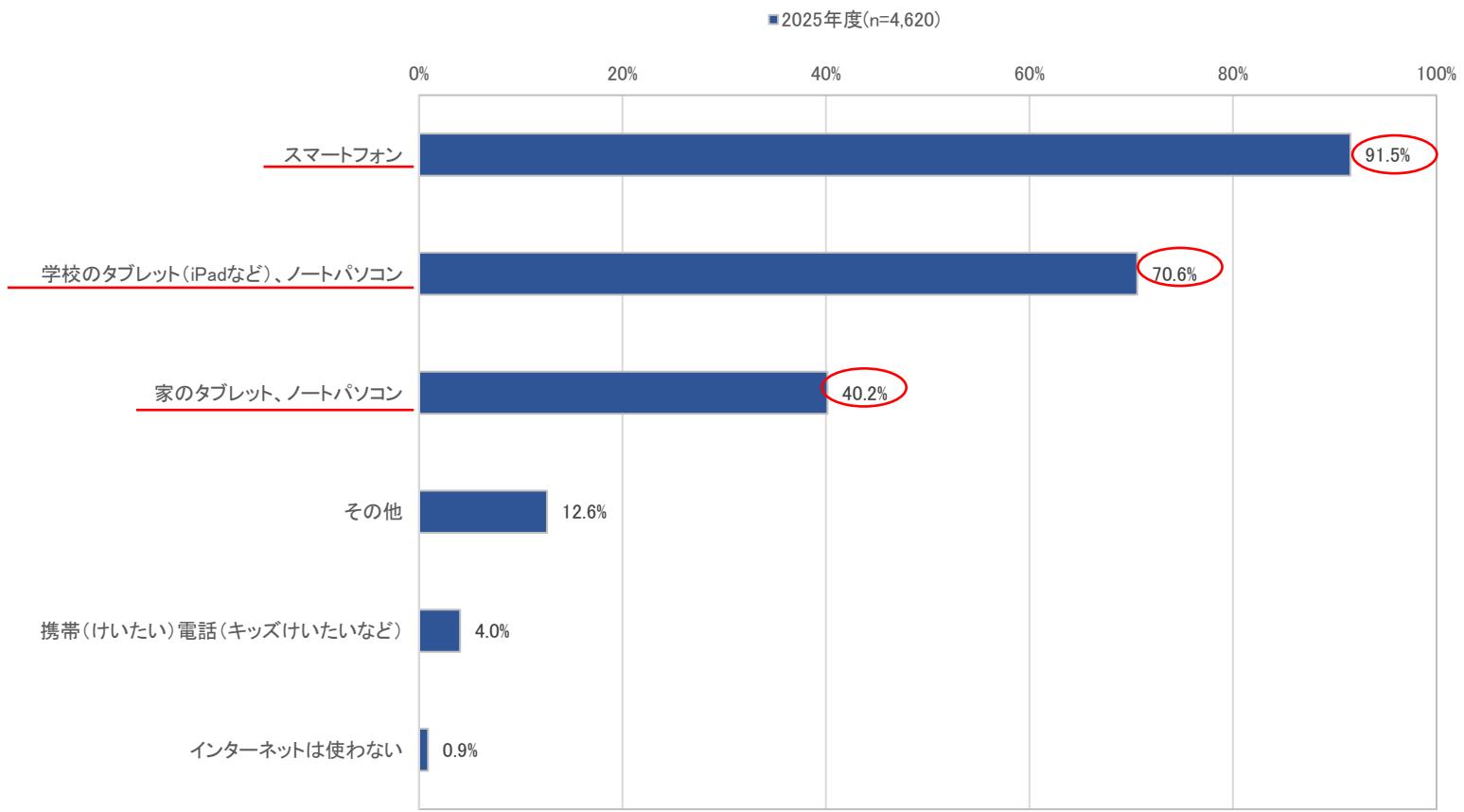
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

(参考) インターネット接続機器ごとの保有割合 (中学校)

○ 全体の91.5%が、よく利用する機器について「スマートフォン」と回答、次いで「学校のタブレット、ノートパソコン」(70.6%)、「家のタブレット、ノートパソコン」(40.2%)と続く。

【図表】よく利用するインターネット接続機器(複数回答)

あなたが普段(ふだん)使っているインターネット接続機器を教えてください。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

(参考) 平日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果(中学校)

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は「2～3時間未満」との回答が最も多く(28.7%)、次いで「1～2時間未満」が26.7%と多い。また、32.4%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表】
- 平日のスマートフォン利用時間別にILASテストの総合正答率の違いの有無をみると、利用時間長いほど、正答率が低い傾向が見られた。【参考】

【平日】のインターネットの利用について、1日何時間使うか教えてください。

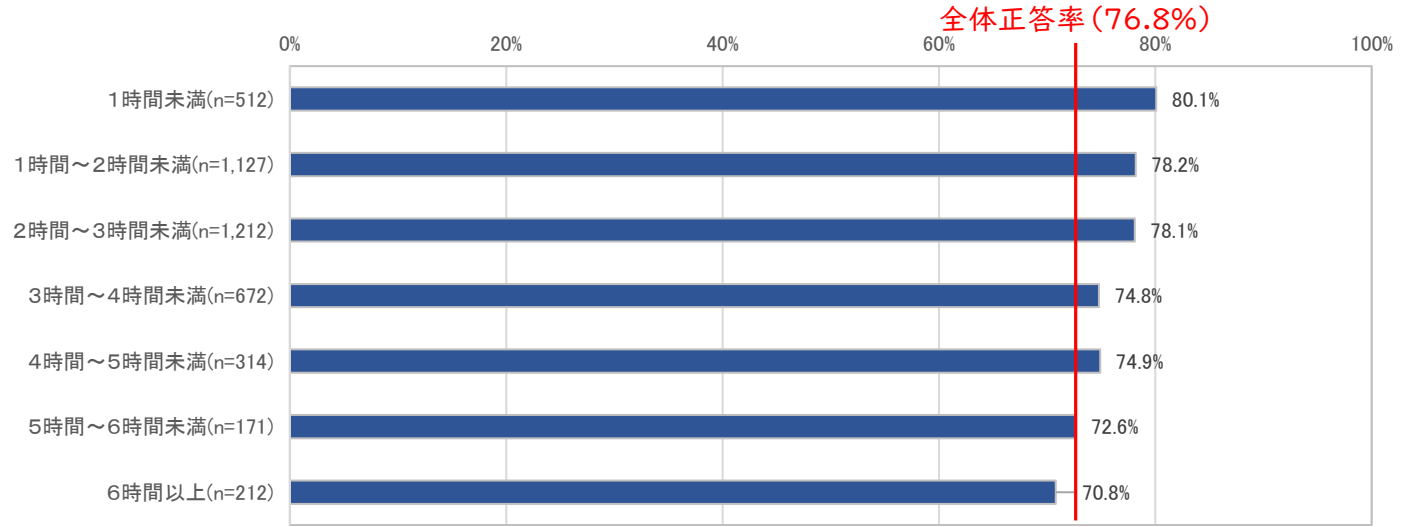
【図表】平日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	12.1%	26.7%	28.7%	15.9%	7.4%	4.1%	5.0%
携帯電話(キッズけいたいなど)	67.4%	9.6%	8.4%	4.5%	3.4%	2.2%	4.5%
学校のタブレット(iPadなど)、ノートパソコン	40.5%	33.1%	16.2%	5.6%	2.4%	1.4%	0.7%
家のタブレット、ノートパソコン	51.4%	23.8%	13.6%	6.2%	1.8%	0.8%	2.4%

計32.4%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

(参考) 休日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILASテスト結果(中学校)

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は「2～3時間未満」との回答が最も多い(21.1%)。【図表1】
- スマートフォンの平均利用時間が3時間以上利用者が5割超(57.6%)を占め、平日と比較すると全体の約25%増加している。【図表2】

【休日】のインターネットの利用について、1日何時間使うか教えてください。

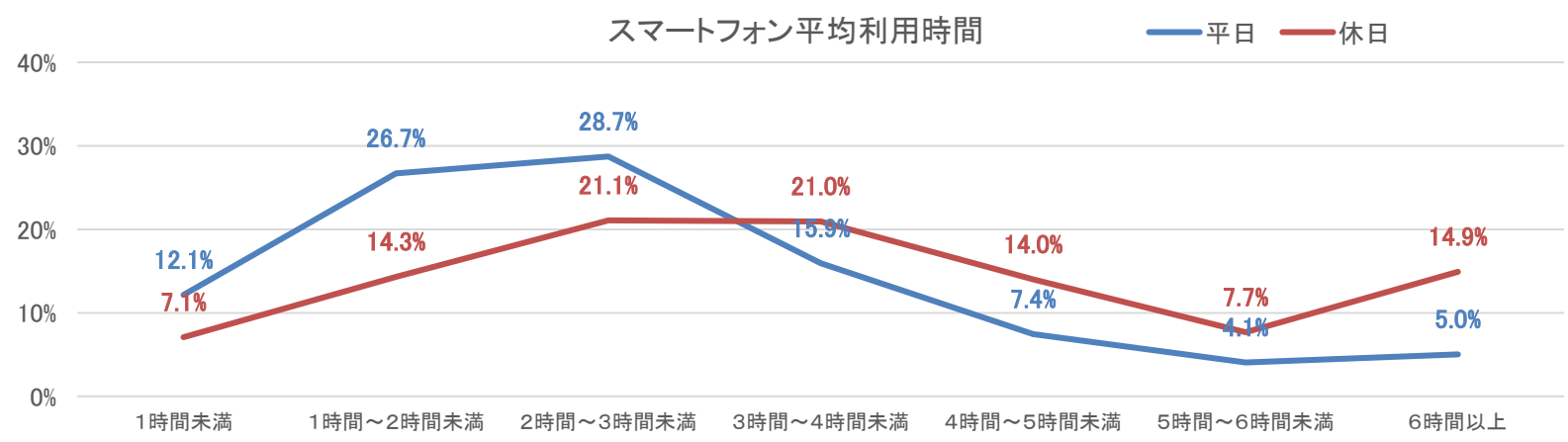
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	7.1%	14.3%	21.1%	21.0%	14.0%	7.7%	14.9%
携帯電話(キッズけいたいなど)	64.6%	10.1%	4.5%	5.6%	4.5%	2.2%	8.4%
学校のタブレット(iPadなど)、ノートパソコン	73.1%	16.8%	6.2%	1.9%	1.1%	0.4%	0.5%
家のタブレット、ノートパソコン	38.9%	23.3%	15.9%	9.6%	5.0%	2.6%	4.7%

計57.5% (スマートフォン利用時間3時間以上利用者の割合)

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】平日1日当たりと休日1日当たりの平均利用時間の比較



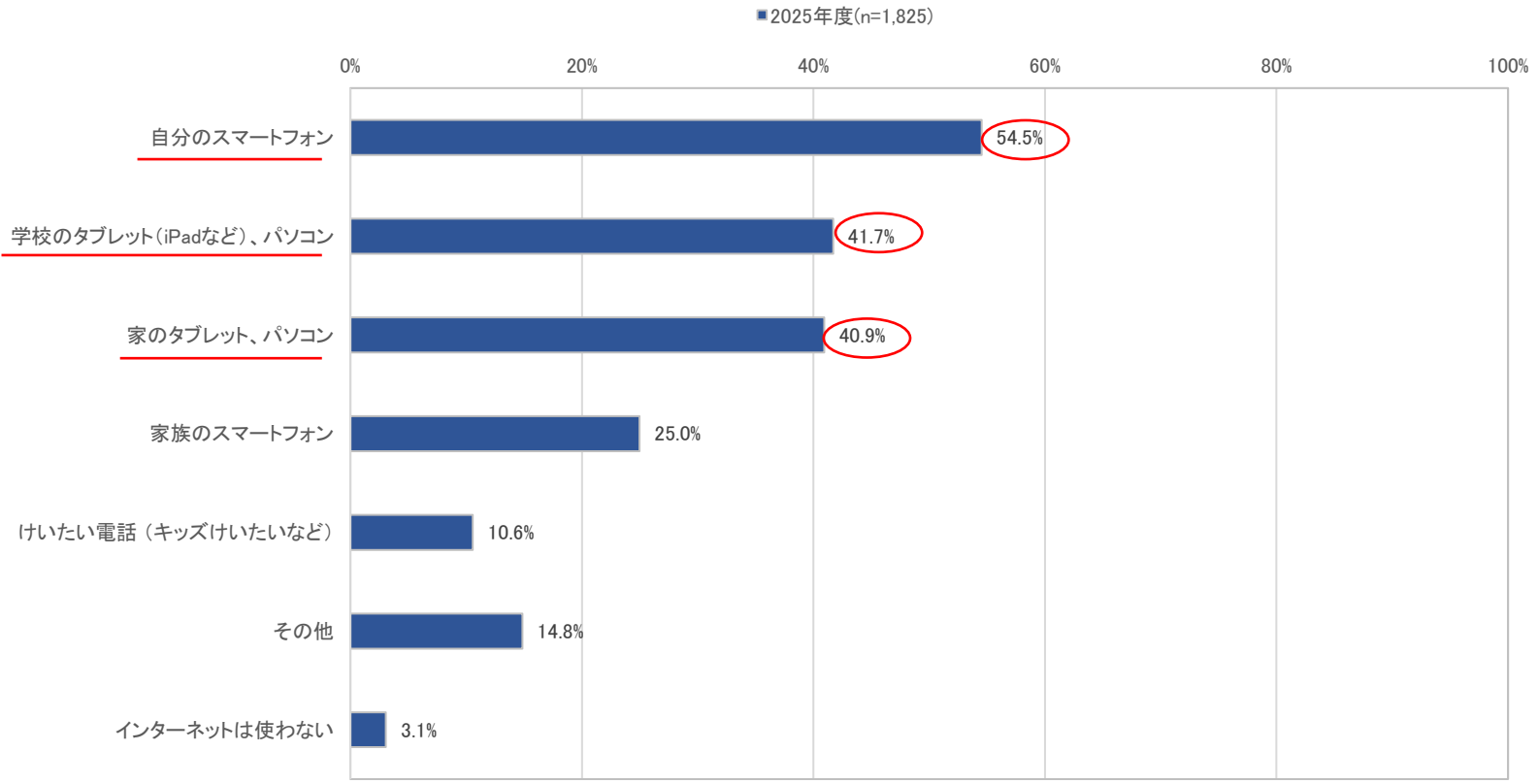
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも中学生)の結果を基に作成。

(参考) インターネット接続機器の保有割合 (小学校高学年)

○ 全体の54.5%が、よく利用する機器について「自分のスマートフォン」と回答、次いで「学校のタブレット(iPadなど)、パソコン」(41.7%)、「家のタブレット、パソコン」(40.9%)と続く。

【図表】よく利用するインターネット接続機器(複数回答)

ふだん、インターネットを使うときに、あなたが使っているものはどれですか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも小学校高学年)の結果を基に作成。

(参考) 平日1日当たりの平均インターネット利用時間と ILASテスト結果(小学校高学年)

- インターネットの平日1日当たりの平均利用時間は「1～2時間未満」との回答が最も多く(31.9%)、次いで「2～3時間未満」が21.6%と多い。また、23.3%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表】
- 平日のインターネット利用時間別にILASテストの総合正答率の違いの有無をみると、「使用しない」と、「5時間以上」では正答率が低い傾向が見られた。【参考】

【学校がある日の】インターネットを使う時間を教えてください。

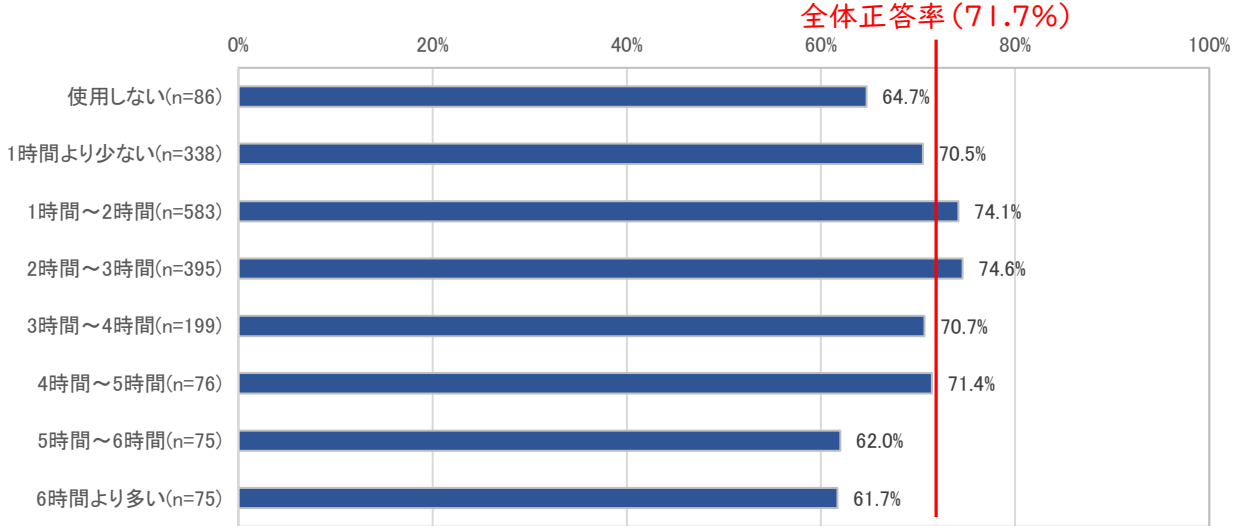
【図表】平日1日当たりのインターネット平均利用時間(択一回答)

使用しない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
4.7%	18.5%	31.9%	21.6%	10.9%	4.2%	4.1%	4.1%

計23.3%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】インターネットの利用時間別の正答率



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも小学校高学年)の結果を基に作成。

(参考) 休日1日当たりの平均インターネット利用時間と ILASテスト結果(小学校高学年)

- インターネットの休日1日当たりの平均利用時間は「1～2時間未満」との回答が最も多い(19.7%)。【図表1】
- インターネットの平均利用時間が3時間以上利用者が5割弱(46.7%)を占め、平日と比較すると全体の約23%増加している。【図表2】

【学校がお休みの日の】インターネットを使う時間を教えてください。

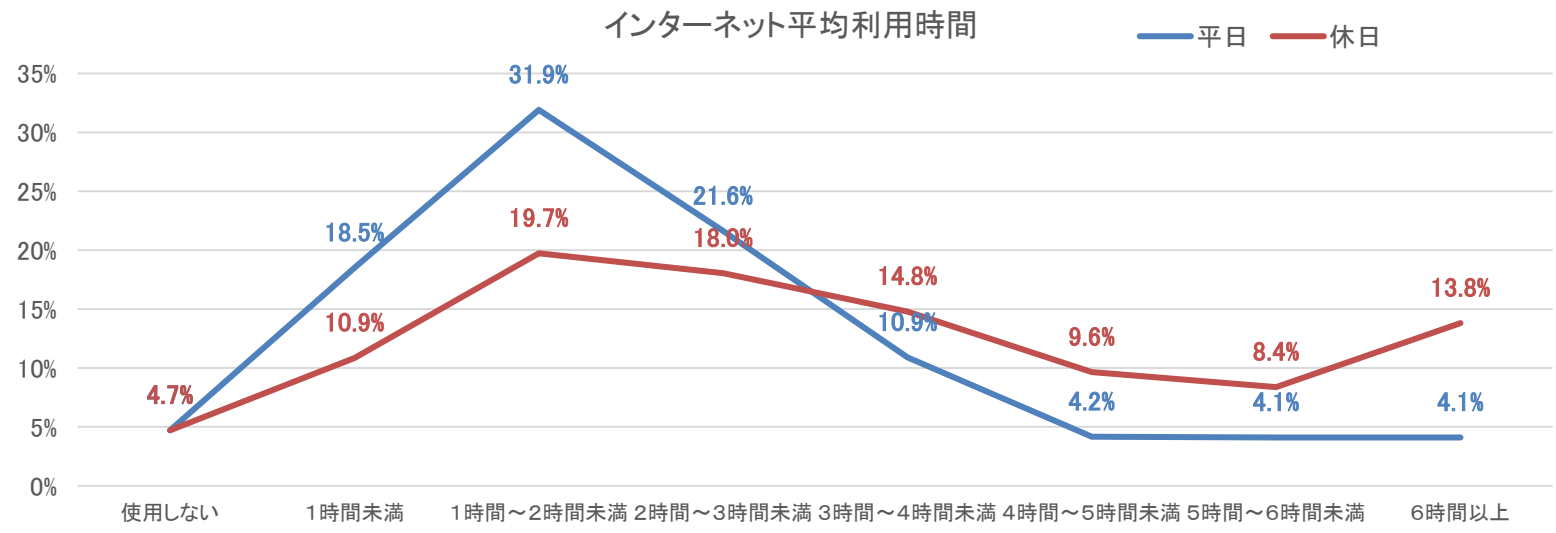
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

使用しない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
4.7%	10.9%	19.7%	18.0%	14.8%	9.6%	8.4%	13.8%

計46.7%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】平日1日当たりと休日1日当たりの平均利用時間の比較



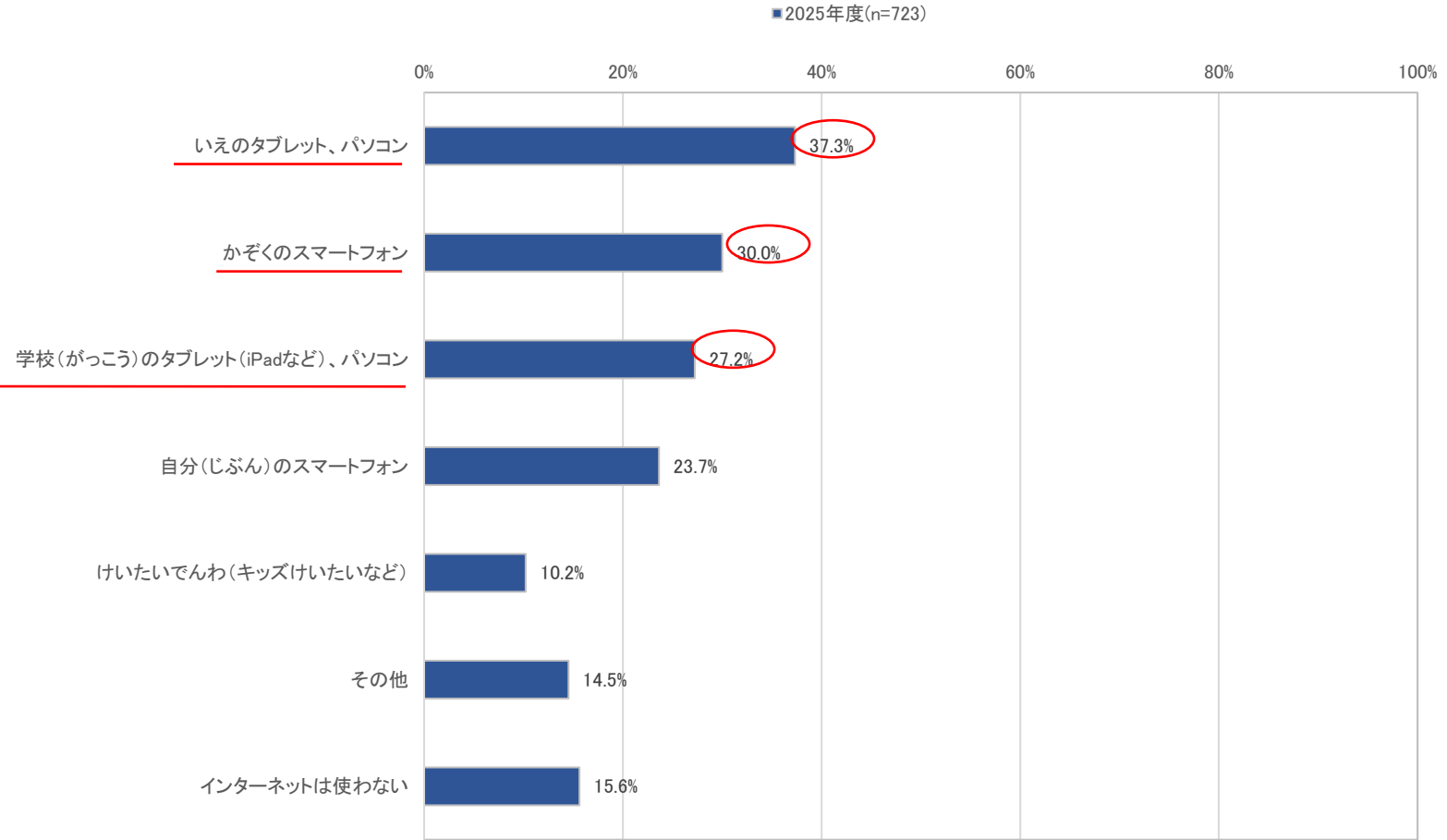
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも小学校高学年)の結果を基に作成。

(参考) インターネット接続機器ごとの保有割合 (小学校低学年)

○ 全体の37.3%が、よく利用する機器について「いえのタブレット、パソコン」と回答、次いで「かぞくのスマートフォン」(30.0%)、「学校(がっこう)のタブレット(iPadなど)、パソコン」(27.2%)と続く。

【図表】よく利用するインターネット接続機器(複数回答)

ふだん、インターネットをつかうときに、あなたがつかっているものは、どれですか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るILASテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも小学校低学年)の結果を基に作成。

(参考) 平日1日当たりの平均インターネット利用時間と ILASテスト結果(小学校低学年)

- インターネットの平日1日当たりの平均利用時間は「1時間未満」との回答が最も多く(35.7%)、次いで「使用しない」が24.1%と多い。また、10.8%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表】
- 平日のインターネット利用時間別にILASテストの総合正答率の違いの有無をみると、「使用しない」と、「4時間以上」では正答率が低い傾向が見られた。【参考】

【学校(がっこう)がある日(ひ)の】インターネットをつかうじかんを、おしえてください。

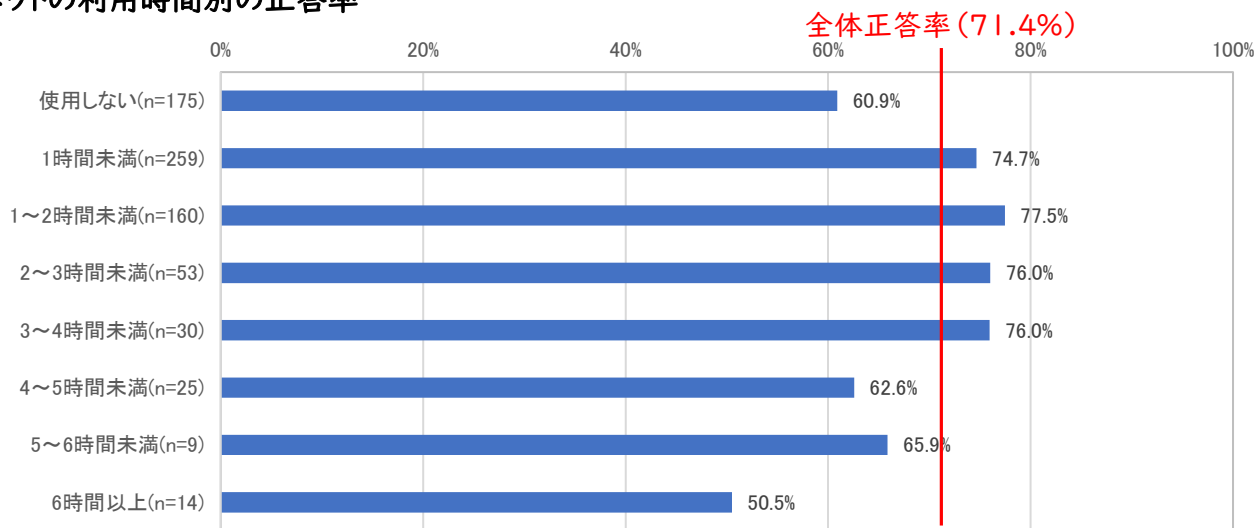
【図表】平日1日当たりのインターネット平均利用時間(択一回答)

使用しない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
24.1%	35.7%	22.1%	7.3%	4.1%	3.4%	1.2%	1.9%

計10.8%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】インターネットの利用時間別の正答率



(参考) 休日1日当たりの平均インターネット利用時間とILASテスト結果(小学校低学年)

- インターネットの休日1日当たりの平均利用時間は「使用しない」との回答が最も多い(24.8%)。【図表1】
- インターネットの平均利用時間が3時間以上利用者が2割強(21.9%)を占め、平日と比較すると全体の約11%増加している。【図表2】

学校(がっこう)が【おやすみの日(ひ)の】インターネットをつかうじかんを、おしえてください。

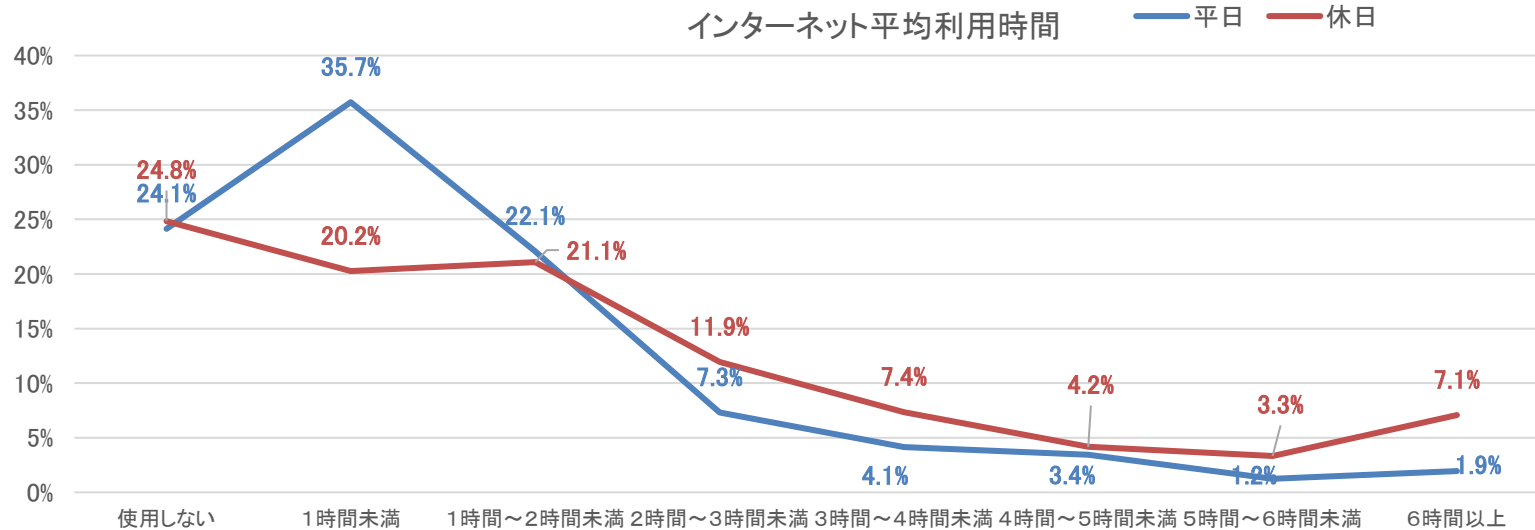
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

使用しない	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6時間以上
24.8%	20.2%	21.1%	11.9%	7.4%	4.2%	3.3%	7.1%

計21.9%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【図表2】平日1日当たりと休日1日当たりの平均利用時間の比較



(参考)「上手にネットと付き合おう!~安心・安全なインターネット利用ガイド~」特集ページ

○ 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合おう!~安心・安全なインターネット利用ガイド~」の特集ページにて、ILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合おう!~安心・安全なインターネット利用ガイド~(総務省)
 特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

上手にネットと付き合おう!
 安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小

総務省

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 **特集ページ** 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査
 -ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。

青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2 不適正利用リスク		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を回りに利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

え?! 実際やってる人もいるのに なぜ気をつけなきゃいけないの?

18歳未満の未成年としての責任を負うことになる高校生だから行動や判断に直結する知識を身につけたい。

#Menu#

- ① 法や条例に触れる利用のリスク
- ② 情報を発信する際のリスク
- ③ 情報を受信する際のリスク
- ④ コミュニケーションのリスク
- ⑤ 売買など取引の際のリスク
- ⑥ プライバシー関連のリスク
- ⑦ セキュリティ関連のリスク

私たち高校生の「未来」のために!

ネットを使う生活の中でちゃんと意識できている?!

情報リテラシー & 情報モラルの高さがカギ
7種のリスクを正しく知ろう!

インターネットやSNSなどを利用する際のリスクとその回避策について、高校生の視点でわかりやすくまとめました。見えないリスクを知り、安全な使い方を一緒に考えましょう。

▲補助教材

総務省

青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査
 -ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) -
 公表用例題

小学校 低学年 (1~3年生) 向け

小学校 高学年 (4~6年生) 向け

中学生向け

全切問のうち、ランダムで問が出現されます。

▲小中学生向け公表用例題
 クイズ形式でリスクへの対応を学ぼう!

(参考)ICTリテラシー向上のための総務省の啓発コンテンツ

小学生～高校生向け

- 総務省「上手にネットと付き合おう!安心・安全なインターネット利用ガイド」インターネットトラブル事例集

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/

※表記・表現は中高生を想定しているため、小学生向けにご活用いただく際にはご配慮をお願いいたします。

実際に起きていることでネットの使い方を考えよう!

インターネットトラブル事例集

2026年版



「こんなトラブルが起こった時どうしたらいいの?」
「どう予防したらいいの?」にお答えします!

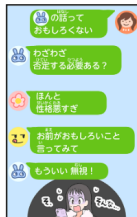
総務省オリジナルキャラクター ハートきゅん

もっと詳しく /
グループトークに起因する「いじめ」も、パターンはさまざま

スマホやSNSの普及で新たな問題となったのが、いわゆる“SNSいじめ”。これまでの、1人の子を多数で追い詰める、発言を無視する、いじめ・嫌がらせのネタとなる写真や動画を共有する、グループから外す(または新たなグループを作り会話を移動)などに加え、「ステメ[®]」を悪用した嫌がらせも全国で起きています。

メンバー以外は読むことができないグループトーク、誰が何を一切書かない悪口ステメ[®]※、いずれも人目につきにくく発見が遅れがち。身近な大人が日々の様子や会話から変化・違和感を察することが早期発見・解決の鍵。また、これも自身も気になる画面をスクリーンショットなどに残して保護者や先生に相談しましょう。

※ステータスメッセージの精で、メッセージアプリのプロフィール欄に書ける一言メッセージのこと。ステメを使ったいじめやトラブルが増えている。



◀ 詳しい解説で疑問点を解消

1 文字だけのコミュニケーションは意外と難しい!?

目次 +

学習のポイント +



ここから僕が解説します



▲ わかりやすいマンガ形式で、遭遇しやすいトラブルとその予防法を解説

(参考)ICTリテラシー向上のための総務省の啓発コンテンツ

小学生～高校生向け

- 総務省「上手にネットと付き合いおう!安心・安全なインターネット利用ガイド」
【啓発教育教材】5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう!守ろう!安心できる情報社会～
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/Ictliteracy_for_yps/

上手にネットと付き合いおう!
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小

Google 総務省

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 特集ページ 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう!守ろう!安心できる情報社会～

特集ページ

【啓発教育教材】
5つの分野のICTリテラシーを学ぼう～つくろう!守ろう!安心できる情報社会～

本ページでは、デジタル空間での特性を理解し、新たな課題にも対応できるICTリテラシーについて、最新の事例も用いながら世代別(青少年向け、保護者向け、シニア向け)の特徴を踏まえて紹介しています。ぜひご利用ください。

【啓発教育教材 青少年向け】

つくろう!守ろう!安心できる情報社会
DIGITAL POSITIVE ACTION

総務省 情報流通行政局 情報流通課編

5つの分野のICTリテラシーを学ぼう
DIGITAL POSITIVE ACTION

青少年の皆さんへ

身につけようICTリテラシー
デジタル空間での生活や学習を支援する
DIGITAL POSITIVE ACTION

本教材では、デジタル空間での生活や学習を支援する目的で、最新の事例も用いながら、世代別(青少年向け、保護者向け、シニア向け)の特徴を踏まえて紹介しています。ぜひご利用ください。

啓発教材等はこちら!



デジタル空間には、こんな特徴がある

- 01 情報の保存性
一度投稿した情報は残りが続く
- 02 情報の匿名性
年齢・性別などを出さなくてもよい
- 03 パーソナライズ
興味を持ちそうな内容が表示される
- 04 エコーチェンバー/フィルターバブル
受け取る情報がかたよっているかも
- 05 アテンション・エコノミー
極端な情報ほど注目される

デジタル空間の特徴を知ること、新しいトラブルにも、どう対応すればいいか自分で考えられる、新しい技術も便利に使いこなせる

04! エコーチェンバー/フィルターバブル
受け取る情報がかたよっているかもしれない!

エコーチェンバーとは?
SNSで自分と似た意見を持つ人をフォローすると、似た意見ばかりが表示されるように

フィルターバブルとは?
自分が好む情報ばかり表示されて、反対意見や多様な考えにふれにくくなる

自分でも気がつかないうちに、差別や偏見につながる可能性も! さまざまな情報をバランス良く取り入れよう!

(参考)ICTリテラシー向上のための総務省の啓発コンテンツ

小学生～高校生向け

- 総務省「つくろう!守ろう!安心できる情報社会 DIGITAL POSITIVE ACTION」
ICTリテラシー向上に向けた取組(教材コンテンツなど)
教材マップ～まなびパレット～

<https://www.soumu.go.jp/dpa/efforts/mapping/>



ネット・SNSを使うときの不安や疑問を解消するために役立つ参画団体・企業や、関係省庁による、各種オンライン教材をご紹介します。



安全に利用する

よく使う 情報の匿名性/保存性 ニセ・誤情報 誹謗中傷 闇バイト

デジタル足あと 著作権/肖像権 オンラインゲーム 健康上の影響

SNSの利用マナー スクリーンタイム リテラシー向上支援

スマホ・ケータイ安全教室(上級コース)

高校生に向けて、スマホ・ケータイを利用する際のルールやマナー、トラブルや事件・事故の事例を紹介し、子どもたち自らの判断でリスクを回避する能力を身に付けるための講座開催や教材提供をしています。

教材形式:講座・講習/利用条件:無償

KDDI株式会社

詳細を見る >

(参考)ICTリテラシー向上のための総務省の啓発コンテンツ

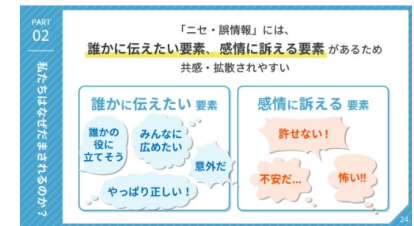
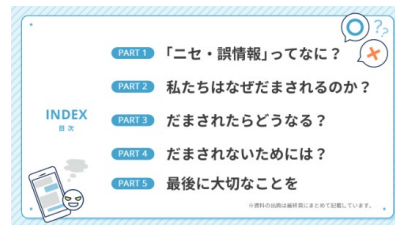
中学生～高校生向け

ニセ・誤情報

- 総務省「上手にネットと付き合おう!安心・安全なインターネット利用ガイド」インターネットとの向き合い方～ニセ・誤情報にだまされないために～第2版

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/nisegojouhou/

啓発教材等はこちら!



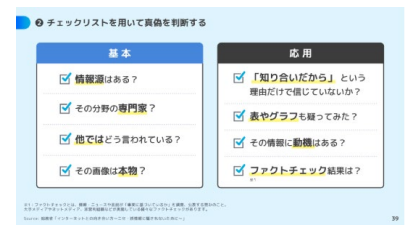
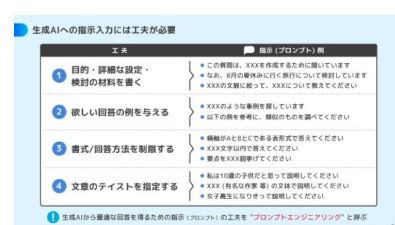
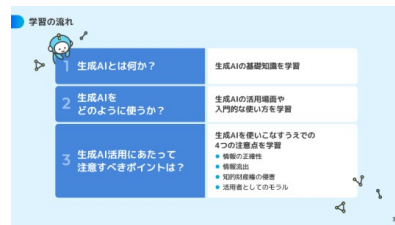
教材より一部抜粋

生成AI

- 総務省「上手にネットと付き合おう!安心・安全なインターネット利用ガイド」生成AIはじめの一步～生成AIの入門的な使い方と注意点～

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/generativeai/

啓発教材等はこちら!



教材より一部抜粋

(参考)ICTリテラシー向上のための総務省の啓発コンテンツ

中学生～高校生向け

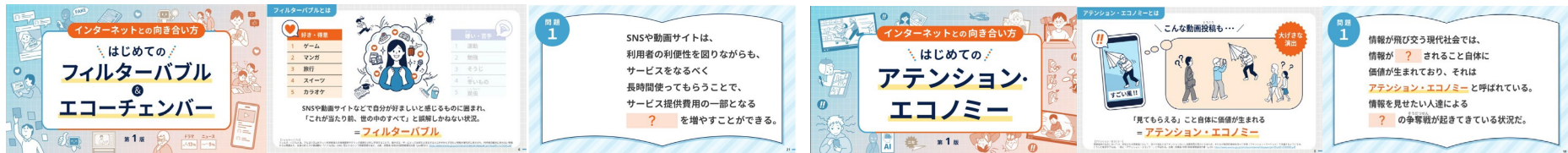
エコーチェンバー&フィルターバブル、アテンション・エコノミー

- 総務省「上手にネットと付き合いおう!安心・安全なインターネット利用ガイド」
インターネットとの向き合い方～はじめてのエコーチェンバー&フィルターバブル～
インターネットとの向き合い方～はじめてのアテンション・エコノミー～

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/filterbuble_echochamber/

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/attention_economy/

啓発教材等はこちら!



ニセ・誤情報、セクステーション等

- 総務省「上手にネットと付き合いおう!安心・安全なインターネット利用ガイド」
ICTリテラシー向上のためのゲーム型教育プログラム「リテプロ」

<http://ictliteracy-game.soumu.go.jp/>

啓発教材等はこちら!



(参考)ICTリテラシー向上に関するプロジェクト(デジタル ポジティブ アクション)

総務省では、国民一人一人のリテラシー向上に向け、官民の幅広い関係者による取組を推進するため、令和7年1月より、官民連携プロジェクト「デジタル ポジティブ アクション」を実施。

1. プロジェクトの推進体制

- プラットフォーム事業者、通信事業者、IT関連企業、関連団体と、総務省が連携して推進。
ICTリテラシー向上のための取組を継続的に実施し、社会的機運の醸成を図る。

<ロゴ・スローガン>

つくろう!守ろう!安心できる情報社会



<参画企業・団体> ※2026年2月時点で23の企業・団体が参画。



「DIGITAL POSITIVE ACTION」
のWebサイト
<https://www.soumu.go.jp/dpa/>

2. 取組の方向性

世代に応じた多様な普及啓発

- 多様な関係者の取組を集約した総合的なWEBサイトの開設
- 多様な関係者によるセミナー開催と、普及啓発教材の作成・活用
- 幅広い広報活動

SNS・デジタルサービスにおけるサービス設計上の工夫

画面上での注意・警告等、事業者による自主的なサービス設計上の工夫

信頼性の高い情報にかかる表示上の工夫

信頼性の高い情報が偽・誤情報に埋もれないよう、事業者による自主的な表示上の工夫